



SHUNKEN 2005-04 33-01

駿建

2005年新学期号 Vol.33 No.1 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

『君は何のために大学に入学したのか』

片桐正夫

と尋ねたとしたら「そんなこと決まっているじゃないか」と、答えが返ってくることだろう。だが、もう一度本音かどうか考えてもらいたい。

というのも君たちの学内での言動を見ていると、とても気になることがあるからである。例えば教室でのふるまい方や受講態度、成果物（レポート・設計図面・卒業研究での論文や、各種の提出物等々）への取り組み、各種の学内行事や活動への参加の様子等々。大学という空間と時間内で一体どのような目的をもって、その実現や体験をしようとしているのか、はなはだ疑問を感じることが度々あるからだ。

疑問の内容は大きく二つある。一つは個人的なことに関する問題、もう一つは自分と集団との関係についての問題である。一つめの問題は、我々教師が、この学生は何のために大学に入ったのだろうとため息をついてしまうような無気力、無関心、無思考のままに行動しているのではないかと思わせられる、学業全般にほぼほどにつきあい、何かに熱くなることもなく、自分のこともよくわからず、自分の適性を見つけ出そうとするが、中途半端な突っ込みでそれもできずに4年間で過ぎてゆくというケース。

また、あまりにも早く「自分は建築に向いていないのでは」という考えにとりつかれる学生の存在。「どれだけ建築について研究したのか、一生懸命取り組んでみたのか」と言いたいのである。

また、どんな分野でもそうだが、天才は限られており、その道で足跡を残した多くの先人は、努力の結果によって成し得た成功であることを承知しているのだろうか。“おもしろそう、興味がある”からスタートするのはいいとして、それだけで道が開かれたと考えるのはあまい。

本当に自分に合った道かどうかは、自分が、道を切り開く努力、つまりは建築について喰いついて、さらにまた喰いついてみることに無しには開かれないのである。そうした努力ののちに少し道筋がつけられると、新たな興味をさそい、やってみようという気持ちがわいてきて、やがて本当の建築好き人間になっていくのである。

二つめの問題は集団との関係である。この問題では、集団の中に身をおくことに苦痛を感じずいわゆる“引きこもり”と、自分が集団に所属しているという自覚が希

薄な場合とがある。

いずれの問題も一種の文明病的現象から起きる人間の思い違いが原因によるものと思う。「ホモサピエンス」という生き物のDNAは、群れて生きるように組まれており、事実群れることで、地球上でのさまざまな生き物の頂上にあって、ほしいままに地球支配しているのである。

その結果、文明の利器によって、あたかも一人で生きられるかのような錯覚状況がつくられてしまった。“引きこもり”状態がつづけられるのは、電気代、食費、生活空間を与えてくれる誰かがいて、あるいは電気や衣食を生産提供している社会が存在するからである。決して一人生きていてのではない。

自分は全くそれらの生産や間接的な協力すらもしない所に身をおいているだけというのは、おいしいとこ取りしているだけのことである。

人は群れる生き物であるということから得られる文明のもたらすメリットを受けている限り、群れからは逃れられない宿命にある。

明らかに品格に欠けるなど、直接の加害行為ではないが、社会にとって困った行動をとっている者に注意した時「あんたには関係ないだろ。何も迷惑かけているわけじゃないし」との答えが返ってくるとしよう。これがまた思い違いなのである。

群れ社会のど真ん中においてそれはない。日本大学理工学部建築学科の学生、一族のメンバー、出身地あるいは居住地としてのメンバー、国籍をもつ国のメンバー、そして地球人のメンバー。人は二重三重に群れのメンバーなのであり、個人の行動は群れに無関係では、決してないのである。

私たち、ひとりひとりの人生、生き方は、群れと共にあり、群れと個人は相互に呼応しながら進んでゆくのである。それぞれが、夢を持ち、それを実現する営みを続けることの集積が、再び夢のある未来を現実のものとするのである。私たちの仕事は、健康な地球を群れの営みとの間のバランスに折り合いをつける仕事。やりがいのある、すばらしいものなのである。

共にがんばろう。若きエンジニアの卵たちよ。

（かたぎりまさお・建築教室主任、教授）

平成17年度 履修要項

建築学科

平成17年 4月

■ 履修に関する一般事項

◆**履修要覧** 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成16年度の、また3年次編入生には平成15年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。平成15年度の改正によって、1～3年次生、4～8年次生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。平成15年度から適用されている新しいカリキュラム（通称「新・新カリキュラム」）では大幅な改訂が行われている。4年次以上の学生が1～3年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表（時間割の裏面参照）によってよく確認の上、受講計画を立てることが

平成17年度クラス担任 学部

学年	クラス担任	研究室 No.
1年	専門	岡村 武士 渡辺 富雄
	A組	中川 浩 石井 直紀
	B組	三島 隆 小川 貴
	C組	小中 秀彦 武藤 司
2年	1組	岡田 章 蜂巣 浩生
	2組	今村 雅樹 橋本 修
3年	1組	大川 三雄 佐藤 慎也
	2組	柳田 武 田嶋 和樹
4年	1組	根上 彰生 石垣 秀典
	2組	重枝 豊 山田 雅一
	再修生	早川 眞
		駿・4号館 453室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	野村 歆	駿・9号館 965室
2年	清水 五郎	駿・4号館 439A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年	秋山 宏	駿・9号館 962B室
2年	宇於崎勝也	駿・5号館 577B室

必要である。

◆**相互履修および単位互換制度** 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能学科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

◆**他学科設置科目の受講** 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があつて、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

◆**受講届** 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

◆**教職課程の受講** 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項〈教職課程〉を参照されたい。

◆**GPA 制度 (Grade Point Average)** 平成17年度入学生より日本大学として統一した成績評価システム(GPA 制度)が導入される。これは授業内容の向上や成績評価の統一化、などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1年次生のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

■ 1年次生

○ 履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成17年度

(2005) 学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに科目担当教員から配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース）の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

○新・新カリキュラムについて

平成15年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格（JABEE、UNESCO-UIA）にも対応した科目構成となっている。学部要覧の授業科目配置表を見るとわかるように、初年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できること、が本カリキュラムの特徴である。なおいずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築教室がコースを決定する。

○総合教育・外国語の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

○基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が、設置されている。前者の共通科目の微分積分学、基礎物理学Ⅰおよび工業数学は、基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得するようにしたい。また後者の専門基礎教育科目には、建築基礎実験とデザイン基礎の必修2科目およびコンピュータテラシ、情報処理の選択2科目が設置されている。これらは全て建築学の基礎であるから、1年次で全て受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には

設置されないこと、デザイン基礎の単位を修得しないと後期の設計Ⅰを受講できないことに留意すべきである。

○専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修3科目と選択4科目の計7科目が設置されている。この内、環境の計画と技術(必修)、建築デザインと歴史、構造の計画と技術、社会と建築・都市の4科目は、建築全般を概観する教科である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を習得するものであり、全ての受講をすすめる。なお初年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、設計Ⅰの単位を修得しないと設計Ⅱを受講できないことに留意すべきである。

1年次では最大46単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日5時限まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間でどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

■ 2年次生

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成16年度（2004）学部要覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい（クラスを変更した受講はできない）。なお1年次設置の専門科目を受講する必要がある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置科目の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目（11科目）はもちろんのこと、共通に位置づけられている8科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目の「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う科目「設計演習Ⅰ」、「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目（卒業のためには※印6科目中5科目以上を取得する必要がある）であり、本コースをめざす場合には、必ず受講することをすすめる。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業

に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では線形代数学が、また専門基礎教育科目では材料化学Ⅰと建築情報処理Ⅰの3科目が設置されている。受講計画上は、構造、環境工学、都市計画の基礎として線形代数学を、構造・材料の基礎として材料化学Ⅰを、環境工学、建築計画の基礎として建築情報処理Ⅰの受講をすすめる。

○環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また3年次には、例えば設計・計画コースの建築設計Ⅴ（設計・計画系群科目）のように、コース毎に独自の科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになること、にも注意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間での卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築教室は「2年終了時の取得総単位数が42単位」という条件を設定している。これは卒業研究への着手条件（3年終了時に102単位）から、1年間で取得できる単位数の上限（60単位）を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく取得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に建築教室が実施するが、学生個々の取得科目の成績（総得点、平均点）や種類などにに基づき適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。

続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程はクラス担任から掲示や建築学科のホームページを通じて伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

○(新)建築設計Ⅱ、Ⅲおよび建築生産実験の受講について

建築設計も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項が、駿河台校舎5号館5階エレベータホールに掲示されるので、必ず掲示を確認するとよい。

■ 3年次生

○各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはおらず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「学部要覧」あるいは「建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

3年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。受講計画の際にはこの点について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

○基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では数理統計学が、また専門基礎教育科目では、材料化学Ⅱ、建築情報処理Ⅱ、振動工学、芸術史が設置されている。受講計画上は、構造・環境・建築計画・都市計画の基礎として数理統計学を、構造・材料の基礎として材料化学Ⅱを、構造の基礎として建築情報処理Ⅱと振動工学を、建築計画設計の基礎として芸術史の受講をすすめる。

○専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コ

スの独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容(シラバス)で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また表1の※印のついた科目は、一級建築士の受験時に極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

ゼミナールは、卒業研究の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が設置す

るゼミを自由に受講することは可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。ゼミナールの実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

○専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも、将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、また卒業条件には10単位まで算入可能であるが、卒業研究着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された各コースの独自科目の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

○他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち共通科目のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、各コースの独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件を全て満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合
- ・3年次終了時に卒業研究着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合
- ・クラス担任と科目担当師が許可した場合（許可印が必要）
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち他コースの独自科目の受講は他学科の科目受講の扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、10単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究着手条件には参入できないことに留意すべきである。

○卒業研究着手条件について

4年次に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%に当たる102単位以上を今年度中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるので、十分に注意してほしい。この卒業研究の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・総合教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、

表1 共通科目の構成（3年次）

科目	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	○	○	△
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○	○	○
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可
※ 一級建築士受験のために重要

表2 各コースの独自科目一覧

	環境・構造コース		設計・計画コース		企画経営コース	
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2	×建築設計Ⅳ	2	都市デザイン*3	2
	環境工学Ⅲ	2	×設計演習Ⅱ	2	経済学特論Ⅰ	2
	構造力学Ⅳ	2	×設計演習Ⅲ	2	経済学特論Ⅱ	2
	構造力学演習Ⅳ	1	設計計画Ⅰ	2	会計学	2
	地盤基礎工学Ⅱ	2	設計計画Ⅱ	2	民法Ⅰ	2
	対地震構造	2	ランドスケープデザイン*2	2	民法Ⅱ	2
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	インテリアデザイン*1	2	行政法規	2
	構造設計Ⅰ及び演習	3	建築史Ⅲ	2	不動産経営	2
			建築史Ⅳ	2	不動産維持管理	2
			都市デザイン*3	2	鑑定評価理論Ⅰ	2
			×都市調査及び演習	2	環境システム解析	2
			×デザインワークショップⅠ*2	1	地域開発計画Ⅰ	2
					地域開発計画Ⅱ	2
				×建築企画設計	2	
				×不動産企画及び演習Ⅰ	1	

× 他コースは受講不可能

*1 2005年度は開講せず *2 2005年度は夏季集中講義で実施

*3 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

14単位、2単位、16単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて取得している場合でも、当該単位数として扱われる）。

- ・外国語科目は、英語6単位まで、その他の外国語4単位まで算入する。
- ・他学科の設置科目（他のコースの独自科目も含む）は、算入しない。
- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：17科目31単位、設計・計画コース：16科目31単位、企画経営コース：17科目32単位）から24単位以上修得していなければならない。

これらの条件の内、先の3条件を考慮すると、専門教育科目の修得単位数は、必修科目を含めて60単位以上修得する必要があることになる。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

○3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1,2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお編入生は認定単位の制約から本年度の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コースの設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

■4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

○卒業研究の着手について

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおり。

卒業に必要な科目区分別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区分別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科目区分ごとに、総合教育科目14単位、外国語科目10単位（英語6単位以上）、保健体育科目2単位、基礎教育科目16単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入しない。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成17年2月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年

表3 4年次設置の専門教育科目の分類

環境・計画系		構造・材料・施工系	
設計演習Ⅱ	(2)	構造設計Ⅱ	(2)
建築経済	(2)	測量及び実習	(2)
建築計画Ⅴ	(2)	特別講義(木造建築論)*	(2)
都市計画Ⅲ	(2)	構造デザイン	(2)
環境工学Ⅲ	(2)	構造解析法	(2)
建築設備演習	(1)	防災計画Ⅰ	(2)
特別講義(デザイン論)	(2)		
防災計画Ⅰ	(2)		
計 15 単位		計 12 単位	

(注) 特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する(*木造建築論：2005年度は開講せず)。

測量及び実習、構造デザインは計画系の学生にも必要な科目である。

4年次設置の特別講義の構成について

特別講義は、高宮眞介教授の「デザイン論」と「木造建築論」が併設されている。

高宮教授の「デザイン論」では、建築を設計する視点から、ルネッサンス以降、近現代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げて解説し、建築意匠を論ずる。特に、モダニズムの原点とその展開を概観するのが目標となっている。

一方の「木造建築論」の目指すところは、どのように建築をつくりあげるかという視点から、広く「木質構造建築」へアプローチする発想を養うことにある。わが国は伝統的に木造の国である。古来伝承されてきた構法に加えて、2×4構法（枠組壁構法）、丸太組構法、大断面集成材による大空間構法など、多様化する木質構造の本質に迫るのが本講座の目標である。ただし2005年度は開講されない。

次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

○卒業研究とは

大学生生活の締めくくりは、4年生の卒業研究である。大学は、各研究室が自由に、国際的に通じるような研究を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち、修士論文と卒業研究の指導が先生個人にも、大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。

1年間、研究室に所属して担当教員と研究テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めることになる。

研究には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつめながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究である。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2,3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系

の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広く知識を求めるのが理想である。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、※印の選択必修科目19科目以上を含むA系列選択科目50単位以上を含めて合計82単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業制作2単位、計6単位があるから、4年次で6単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件130単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が6単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、 $6 + 6 = 12$ 単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、※印の選択必修科目の中からA系列18科目以上、B系列11科目以上を含めて82単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマとも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

○就職について

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実是这样うまくゆかなくて、就職活動は2月、3年次の期末試験が終わるとすぐに始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報を見たり、企業のホームページ、D. M. を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

○大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期(修士)課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」、「不動産科学専攻」および「医療・福祉工学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期(修士)課程と博士後期(博士)課程を設置している。建築学、不動産科学および医療・福祉工学専攻の平成18年度入学試験の募集定員はそれぞれ50、10、10名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明

する。学部の卒業見込者および卒業生(社会人は除く)が受験できる入学試験は、7月に実施される「推薦入学試験」と「一般Ⅰ期入学試験」、9月に実施される「一般Ⅱ期入学試験」の3種類である。

現状では、大学院進学者は学部4年次卒業研究の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉強・研究・設計などを視野に入れて卒業研究の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員(現状21名)を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

●設計・計画系(建築史特別研究、建築計画特別研究、都市計画特別研究): 9名

片桐正夫(歴史)、高宮真介(計画)、本杉省三(計画)、横河 健(計画)、若色峰郎(計画)、今村雅樹(計画)、野村 歡(計画)、小嶋勝衛(都市計画)、根上彰生(都市計画)

●環境・設備系(環境工学特別研究): 3名

井上勝夫、関口克明、早川 真

●材料・構造系(建築材料学特別研究、建築構造学特別研究、防災工学特別研究): 9名

清水五郎(材料)、友澤史紀(材料)、安達俊夫(構造)、斎藤公男(構造)、白井伸明(構造)、半貫敏夫(構造)、秋山 宏(構造)、三橋博巳(構造)、石丸辰治(防災)

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

1. 大学院教員1人あたりの受入大学院生数は最大6名までとする。
2. 推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績(卒業研究着手時)が概ね上位25~30%に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大4名までとする。
3. 大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、3年次に実施される自己実力診断模擬試験および国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。
4. 短大教員を含む専任講師以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名までとし、協同指導の大学院教員の6名枠に含めるものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよいだろう。

また、不動産科学専攻および医療・福祉工学専攻に関

する詳細な情報を知りたい学生は、それぞれ三橋博巳教授および野村歡教授に相談すること。

■ 建築実験について

建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表4に示す。

■ 建築設計について

1～3年次生は新・新カリキュラム、4年次生以上は従来のカリキュラムでの履修になるので留意すること。

○ 1～3年次生（平成15年度以降入学者）

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

（新）建築設計はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の（新）設計演習Ⅰは選択科目である。3年次前期の（新）建築設計Ⅳは、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

（新）建築設計Ⅴ、Ⅵ、（新）設計演習Ⅱ、Ⅲ、デザインワークショップⅠ、Ⅱは、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

デザインワークショップⅠは、今年度8月上旬に夏期集中授業として開講される。来年度は、デザインワークショップⅡが開講され、デザインワークショップⅠは開講されない（ただし、来年開講されるデザインワークショップⅡは、3年次生も受講可能）。

・必修科目である（新）デザイン基礎、（新）建築設計Ⅰ～Ⅲは、設置順に段階的に単位を修得しなければなら

ない。

- ・選択科目である（新）建築設計Ⅳ～Ⅵ、（新）設計演習Ⅰ～Ⅲは、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

○ 4年次生以上（平成14年度以前入学者）

建築設計はⅠ～Ⅲまでが必修科目で、3年次後期の設計演習Ⅰと4年次前期の設計演習Ⅱは選択科目である。設計演習Ⅰ、Ⅱは、将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路を良く考えてから選択してもらいたい。

- ・建築設計の科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。デザイン基礎Ⅰ、Ⅱを修得しないで建築設計Ⅰ、Ⅱを、建築設計Ⅰ、Ⅱを修得しないで建築設計Ⅲと設計演習Ⅰを、建築設計Ⅲと設計演習Ⅰを修得しないで設計演習Ⅱを受講することはできない。すなわち、建築設計科目は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・その他、建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2005年度建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階エレベータホール、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。
- ・4年次以上で、デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ、建築設計Ⅰ、Ⅱを修得していない者は、平成15年度から新・新カリキュラムがスタートしているため、表5に示すように科目名称が変更となっているので留意すること。事務担当に確認の上、再受講手続きを行うこと。

表4 建築実験の実験項目と担当者一覧（平成15年度以降入学者）

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 岡村	化学実験（一般・化学） 物理実験（一般・物理） 専門科目 振動実験（石丸、石垣） 構造部材（岡村） 構造強度（斎藤（公）、岡田） 風洞実験（三橋、下村、広部） 測定法（中山）
建築生産実験（必修・1単位） 三橋	木材・コンクリート実験 （清水（五）、友澤、中山、依田、飛坂） 鋼材実験（半貫、三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修、他コース：選択；1単位）井上、橋本	騒音実験（井上、橋本、吉村、冨田） 設備実験（早川、蜂巣、八町） 光実験（関口、橋本、羽入、冨田）
建築構造実験（環境・構造コース：必修、設計・計画コース：選択；1単位）岡田	構造安定実験（斎藤（公）、岡田、宮里） 構造部材実験（白井、田嶋、清水（泰）） 土質実験（安達、山田）

（注）実験項目については、担当者の研究室へ、可否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること。

表5 建築設計科目対照表

学年	前・後期	従来のカリキュラム	新・新カリキュラム
		4年次生以上	1・2・3年次
1年	前期	デザイン基礎Ⅰ	（新）デザイン基礎
	後期	デザイン基礎Ⅱ	（新）建築設計Ⅰ
2年	前期	建築設計Ⅰ	（新）建築設計Ⅱ
	後期	建築設計Ⅱ	（新）建築設計Ⅲ
		——	（新）設計演習Ⅰ
3年	前期	建築設計Ⅲ	（新）建築設計Ⅳ*
		——	（新）設計演習Ⅱ
	後期	設計演習Ⅰ	（新）建築設計Ⅴ
		——	（新）設計演習Ⅲ
	夏期集中	——	デザインワークショップⅠ
4年	前期	設計演習Ⅱ	（新）建築設計Ⅵ
	夏期集中	——	デザインワークショップⅡ
	前・後期	卒業制作	卒業研究・設計

■ 全コース必修

* 設計・計画、企画経営コースの学生は必修

■ はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか(=履修計画)は個人に自由が与えられると共に責任が生じる。各自が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据え履修計画をすることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画をすること。また、学科で作成している「Navigation for Students—新入生の手引き—」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生(表1)に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位(総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位(必修:26単位、選択:10単位)以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上)を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が一方に偏らず建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい制度(成績評価、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、履修コースの選定)について概説し、建築設計と建築実験の受講に際する注意を述べる。

■ 成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。平成17年度入学生(1年次生)より、成績表はS、A、B、C、D、N(S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定)と表記される(表3参照)。また、成績証明書にはD(59点以下)は表記されない。なお、平成17年度以前の入学生(2年次生以上)は従来どおりの表記とすることに注意されたい。

■ GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える(表3参照)。

②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてそれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA(グレード・ポイント・アベレージ)とする(表4・(1)式参照)。表4の例では、GPAは $19/9 = 2.11$ となる。

$$GPA = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した全ての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数62単位に含まれない単位(部外単位)
- 3) 理工学部以外の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

■ 履修科目の登録単位数の上限

前学期および後学期の1年間に履修登録する単位数は50単位以下でなければならない。また、前学期または後学期に履修登録できる単位数は30単位以下でなくてはならない。ただし、該当年次の前学期に取得した単位数が21単位以上でありかつ、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)が2.5以上である場合には、年間55単位まで登録することが可能となる。4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限(50単位)を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように、年間を通じた計画をすることが望ましい。

なお、登録単位数としてカウントしない科目は以下の通りである。

- 1) 卒業要件単位数に算入することのできない科目
- 2) サマーセッション・スプリングセッションにおける再履修用開設授業科目

■ 単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。

る。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認のうえ履修登録すること。

■ 科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなければならぬ。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

■ 履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコースの選定は2年次はじめに自由に選択することができる。1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どちらのコースで主に学んでいきたいのか、どちらのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される(表5)。なお、所属コースによらず建築学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)	E-mail(nihon-u.ac.jp)
1年	岩田 惇	大講堂体育館 H	047-469-(5298)	iwata@gaea.jcn.
	田所辰之助	545・A	047-469-(5819)	tadokoro@arch.jcn.
	羽入 敏樹	622・A	047-469-(5263)	hanyu@arch.jcn.
2年	中山 優	545・B	047-469-(5566)	nakayama@arch.jcn.
	吉野 泰子	545・A	047-469-(5479)	yoshino@arch.jcn.
	内藤 正昭	926・B	047-469-(5433)	naitow@arch.jcn.

表2 卒業に必要な単位

科目区分	卒業要件単位数
総合教育科目	12
基礎教育科目	7
専門教育科目	26
必修科目(15科目)	26
選択科目	10
科目区分によらない任意の単位	7
総計	62

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント(平成17年度入学生に適用)

成績表上の表記		グレード・ポイント
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

■ 必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. デザイン基礎、建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、課題・中間提出日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、全ての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定されホームルーム(1年次:1112教室、2年次:935教室)に掲示される。全ての実験を所定の日に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
物理学Ⅰ	2	B	2	4
微分法	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学演習Ⅲ	1	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	コンピュータ支援構造解析	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	構造設計法	2	
	建築施工法	2	鋼構造	2	
	環境工学Ⅰ	2	振動工学	2	
	環境工学Ⅱ	2			
	鉄筋コンクリート構造	2			
	土質及び基礎構造	2			
デザイン	建築法規	2	都市計画概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	
	美術・様式史	2	インテリア計画	2	
	空間デザイン	2	卒業制作	2	
	デザイン・生産実習*	2	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1	
	建築メディアデザイン演習Ⅰ	1			

*サマーセッション

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法—作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
構造の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築基礎実験・建築実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	清水研究室 (439-A)
	はじめてまなぶ ちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	安達研究室 (433-A)
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	書店
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻) 建築の構造とデザイン	齋藤謙次 斎藤公男 監訳	理工図書 丸善	2,467 2,940	ガイダンス時に案内 書店
	建築構造力学 (下巻) 建築の構造とデザイン 鋼構造塑性設計指針	齋藤謙次 斎藤公男 監訳 日本建築学会	理工図書 丸善 日本建築学会	2,467 2,940 3,360	ガイダンス時に案内 書店 日本建築学会, 書店
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	建築構造力学演習 (上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
鉄筋コンクリート構造Ⅰ, Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計—学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 —許容応力度設計法	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	斎藤研究室 (439-C)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造とデザイン 構造デザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間 —スポーツ・イベント・展示ホール—	日本建築学会	彰国社	1,937	斎藤研究室 (439-C)
構造解析	建築技術者のための 有限要素法入門	佐藤稔夫 編著	理工図書	2,940	書店

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
振動工学，対地震構造	応答性能に基づく「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
建築材料Ⅰ，Ⅱ	建築材料用教材	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	清水研究室（439-A）
建築施工法，建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	半貫研究室（432-A）
一般構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する) 構造用教材	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
			日本建築学会	1,937	書店
一般構法Ⅱ	建築構法 建築構法汎論 構造用教材 図解テキスト 基本建築学	内田祥哉 福島正人 日本建築学会 上杉 啓，真鍋恒博 他	市ヶ谷出版	2,940	書店
			森北出版(株)	3,570	
			日本建築学会	1,937	
			彰国社	4,410	
地盤基礎工学Ⅰ，Ⅱ	基礎構造の設計 —学びやすい構造設計— 建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	安達研究室（433-A）
		日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会，書店
(新)デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎，柳田 武 他	彰国社	3,150	書店
(新)建築設計Ⅰ	建築設計教室 建築デザインの製図法 から簡単な設計まで 新訂 建築製図	勝又，宮下，本杉	彰国社	3,150	書店
		武者英二，永瀬克己	彰国社	2,415	書店
		日本建築学会	彰国社	1,680	書店
建築計画Ⅰ	検討中	——	——	——	ガイダンス時に案内
建築計画Ⅱ	検討中	——	——	——	ガイダンス時に案内
設計計画Ⅰ	設計方法Ⅳ —設計方法論 設計方法Ⅴ —設計方法と設計主体 デザインの鍵 設計方法論	日本建築学会，建築計画委員会，設計方法小委員会	彰国社	1,995	書店
		日本建築学会，建築計画委員会，設計方法小委員会	彰国社	2,447	書店
		池辺 陽	丸善	2,310	書店
		太田利彦	丸善	3,045	書店
建築計画Ⅳ	日本住宅の空間学 住計画論	宇杉和夫	理工図書	3,360	書店
		本間博文 他	日本放送出版協会	3,570	書店
	日本における 集合住宅計画の変遷 都市計画論	高田光雄 他	日本放送出版協会	2,310	書店
		香山壽夫	日本放送出版協会	2,520	書店
建築計画Ⅴ	日本の空間認識と 景観構成	宇杉和夫	古今書院	11,760	書店
		野村 歡	保健同人社	2,783	書店
		野村 歡	建築資料研究社	3,675	書店
		野村 歡 監修	彰国社	3,150	書店
建築人間工学	建築設計資料集成 —人間	日本建築学会	丸善	9,870	書店
	建築人間工学事典	日本建築学会	彰国社	3,780	書店
	人間工学の百科事典		丸善	未定(近刊)	書店

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
都市計画Ⅰ,Ⅱ	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています)
	都市計画 第3版	日笠 端, 日端康雄	共立出版	3,990	書店
	日本近代都市計画の百年	石田頼房	自治体研究社	2,548	書店
	「都市計画」の誕生	渡辺俊一	柏書房	3,670	書店
都市デザイン	都市の計画と設計 まちづくりデザインの プロセス	小嶋勝衛 監修 日本建築学会 編	共立出版 丸善	3,465 1,995	書店 (都市計画研でも扱っています) 書店
都市計画Ⅲ	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています)
	都市の景観	G. カレン 北原理雄 訳	鹿島出版会 (SD選書)	1,890	書店
	新しい都市デザイン	J. パーネット 倉田直道・洋子 共訳	集文社	3,675	書店
建築法規及び行政 短大建築法規	基本建築関係法令集 上巻 (法令編)	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	未定	書店もしくは指定された日に購入
	建築法規用教材	日本建築学会 (建築法制委員会) 編	日本建築学会	未定	書店
建築史Ⅰ	日本建築図集	小林文次 他	相模書房	2,625	建築史研究室 (587-A, B)
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
建築史Ⅱ,Ⅲ	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史研究室 (587-A, B)
	日本の近代建築(上,下)	藤森照信	岩波新書	各651	書店
	図説 近代日本住宅史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,360	書店
	建築モダニズム	大川三雄 他	㈱エクスナレッジ	3,150	書店
	近代和風を探る(上,下)	大川三雄 他	㈱エクスナレッジ	各1,470	書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	3,255	建築史研究室 (587-A, B)
	新建築学大系 3 東洋建築史		彰国社	7,088	書店
環境工学Ⅰ	建築環境工学[改訂2版]	田中俊六, 武田 仁, 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会	日本建築学会	1,890	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	井上研究室 (582-A)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
環境工学Ⅲ	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	井上研究室 (582-A)
	建物の遮音設計資料	日本建築学会 編	技報堂出版	5,460	書店
建築設備Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の 実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の 実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての 建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建設学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
デザイン基礎	建築デザインの製図法から簡単な設計まで コンパクト建築設計資料 集成(住居)	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	田所研究室 (545-A)
		日本建築学会 編	丸善	7,035	書店
建築計画 I	新版 建築計画 1(現代建築学)	岡田光正 他	鹿島出版会	3,045	小石川研究室 (546-B)
建築法規	建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室 (1357)
建築史 I	日本建築史図集 新訂版	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545-A)
建築史 II	西洋建築史図集 三訂版 マトリクスで読む20世紀 の空間デザイン	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545-A)
		矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545-A)
デザイン論	マトリクスで読む20世紀 の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545-A)
		大川三雄 他	彰国社	3,360	田所研究室 (545-A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉 監修	理工図書	4,893	内藤研究室 (926-B)
建築材料	建築材料用教材 第2版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	建築教室事務局 (915)
応用力学 I, II	建築材料力学 建築応用力学 改訂版	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
		小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	書店
応用力学演習 I, II	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
		西村敏雄	理工図書	4,935	書店
構造力学 I, II	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習 I, II	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学 III	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習 III	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造 第二版	本岡順二郎	彰国社	2,835	中山研究室 (545-B)
鋼構造	鉄骨の設計 増訂 2版	若林 實	共立出版	2,940	岡田研究室 (926-A)
構造設計法	新版 わかりやすい鉄筋コン クリート構造の設計 鉄筋コンクリート構造計算 規準・同解説	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,570	内藤研究室 (926-B)
		日本建築学会 編	日本建築学会	5,880	書店
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
木質構法	3階建てまでできる記入式 2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
空間デザイン	空間 構造 物語 建築構造のしくみ	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (546-A)
		川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (546-A)
環境工学 I	最新 建築環境工学[改訂2版] 建築環境工学用教材 環境編 住宅の環境設計データブック	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
		日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学 II	建築音響と騒音防止計画 第三版 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622-A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備概論 第二版 建築環境工学用教材 設備編	吉田 燦	彰国社	4,200	吉野研究室 (545-A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
環境の計画と技術	人間住宅 住まいの環境学 福祉住環境コーディネーター 検定試験 3級テキスト 最新 建築環境工学[改訂2版]	建築・都市ワークショップ 編	INAX 出版	1,890	ガイダンス時に指示
		梅干野 晃	放送大学教育振興会	3,364	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所検定 事業部検定センター	1,890	書店
		田中俊六 他	井上書院	2,940	書店
福祉住環境概論	福祉住環境コーディネーター 検定試験 3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 3級過去問題集一発合格	TAC福祉住環境研究会 編	東京商工会議所検定 事業部検定センター	1,890	ガイダンス時に指示
		東京商工会議所 編	TAC(株) 出版事業部	1,680	ガイダンス時に指示
情報処理	はじめて学ぶC言語入門 (改訂版)	斎藤奈保子, 渡部由利, 宮本英美	実教出版	2,100	書店

英、仏、伊にみられる木組み建築の町並み紀行

海外出張報告

清水五郎

はじめに

渡航の機会をいただき、記憶に残る充実した旅が実現した。標記の木組み建築（または木骨建築）とはハーフトインバーとも呼ばれ、中世ヨーロッパの各地で民家や店舗に採用された伝統的な建築様式で、柱、梁、斜材で構成される骨（軸）組の隙間を煉瓦やしっくいで充填する真壁形式を特徴としている。

立案の動機としては、近年、清水研究室において集成材による木質系構造部材の高性能化に挑戦していることがあり、その他の理由としてはヨーロッパの片田舎に情緒に満ちた町並み、癒しの空間を求めて探索する衝動にかられたことにある。したがって、各地のカントリーサイドをジグザグに巡る今回の旅は列車を乗り継ぐ旅として総延長7,500km超30日間の大移動となった。



地方が面白いイギリス

入国の骨休めをかねて3日間ロンドンに滞在した後、列車で北上し、ヨーク、エディンバラを目指した。木組み建築との最初の出会いはヨークの旧市街地からはじまり、2、3階建の古びた店舗建築群が狭い路地や町角を構成し多くの観光客を集めている。木組みの梁は樹木の自然な湾曲をそのまま意匠にとり込み、水平に配すことにこだわらない技法が特徴的。柱も垂直ではなく、したがってその壁も微妙に外側に倒れ、非日常的な外観が軒を連ねて出現する。何とも不思議な空間との遭遇であった。多様な木造建築がみられる中で、格子や連子、出窓を多用した端正な純木造の専門学校（1461）が存在していた。手入れの行き届いた中庭には保存と修復のため募金の看板がスマートに置かれている。大都市エディンバラの旧市街地を訪れると、中世の古典的な石組みの街並みを楽しむことができる。木組みの町並の優しい景観と温もりを実感するための好対照ともいえる。

ロンドンに戻る途中、城壁の都チェスターに立寄った。ショッピングセンターやパブ・レストランが占める“ローズ”と呼ばれる中心部には4、5階建ての建築が密集している。黒塗りの木骨軸組みと白壁の絶妙な組み合わせを基調として外観が構成され、個性的な実に美しい意匠の競演といえる。2階の道路側には両隣りを結ぶ木調の手摺の付いた回廊が延々と連なっており大集合体を形成している。町並みの構成には、一体化のための強烈なコンセプトが伝わってくる。また、個々の建物の洗練された



木組みの家並／ヨーク



木組みの家並／チェスター



木造教会（妻側）／オンフルーフ

意匠には魅了して厭きさせない主張がある。思わず、来て良かったと呟くほどの感動を覚えた。

その他の地域では石灰岩切石造りの静かな村落を見るため、コッツウォルス地方のストウ・オン・ザ・ウオルドを訪れ、タイムスリップした別世界に浸った。

個性豊かなフランス

ハーフトインバーの町並みを求める今回の旅では、英仏海峡を臨むノルマンディー地方に限ってみても数多くの地域が存在するが、訪問先間のアクセスが悪いため、効率の良い順路を見出すのはほとんど不可能に近い。不便な片田舎の小さな港町オンフルーフは最寄駅からバス、タクシーによって訪問が実現した。著名な画家や文人に愛されたご当地オンフルーフは絵になる風景に満ちている。旧港に係留されたヨットを背景に7、8階の建物が壁を接して建ち並び、陽射しによって表情を様々に変える。どんなに奥深くカメラが仕舞い込まれていても取り出してレンズを向けたくなる光景であろう。この地域には素朴な木組みの建築があちこちに点在している。フランス最古の木造教会（14-15世紀）は船大工の手によるもので町のランドマーク的な存在。今なお健在であり、別棟の鐘楼からは往時の鐘が時を告げて四方に響き渡る。

パリへ戻る途中、ルーアンで下車して1泊した。ゴシック様式の大聖堂、エレガントなサンマクルー教会、ロマネスク建築の裁判所、大時計・鐘楼、博物館などの歴史的文化遺産に恵まれている。木質系では2000軒にも及ぶ大小の木骨構造の建物が軒を連ね、町並みに特色と潤いを与えている。殉教者ジャンヌ・ダルクに捧げられた近代的な教会、その記念教会の屋根は海をイメージした木組みのシェルで構築され、2壁面の全面ガラスにはステンドグラスが組み込まれ、明るい大空間を演出している。

ドイツと国境を接しワインの産地、コウノトリの生息地として知られるアルザス地方のストラズブールやコルマル、旧市街地には戦災を免れた木組み建築物が保存され張り出し式の小塔や出窓をもつアルザル風の家並みを残している。家々のバルコニーにはゼラニウムの花

が飾られ、散策をより楽しいものにしてくれる。同じ雰囲気をもつ木組み構造の家並みはパリに向かう沿線上のトロワ、中央部のブルゴーニュ地方のディジョンにも見られる。それらはいずれもシャンパ街道、ワイン街道と呼ばれるベルト上にあり、郷土料理の美食とセットで語られることが多い楽しいルートでもある。

フランスではディジョンからリヨンを中継して南仏のニースに滞在した。その近郊にあるエズ村はかつて山頂を要塞として開拓し、切石で築造された小さな集落であるが、総てが単調な石肌で構成された景観は紺碧の空と海に映えて実に美しく、そこからは感動のみならず積極的な景観保全の必要性が伝わってくる。豊かな個性に満ちたフランスの片田舎、行くことを断念した田舎町、パリを語らずともフランスの印象は随所で強烈であった。

通過点のイタリア

列車を乗り継ぐ旅も終盤を迎えるようになった。国境を越え、超特急から鈍行まであらゆる列車を利用したことになる。時刻表はまだ手放せない。南仏のニースからモナコを経てミラノに入り、ベニス、フィレンツェ、そしてローマが終着駅となる。主要都市を拠点として楽しく過ごすことはできたが、木質系…とは無縁となり負担が軽減(?)されている。わずかに付け加えるとすれば、ベニスの迷路上に比較的大型の木骨の店舗を発見したこと、そしてローマのパンテオン入口の切妻屋根の小屋組みが木造であったことなどである。

おわりに

多少の苦労はあっても、100%手作りの30日間の日替り旅行、若い学生諸君に負けないほど順調に推移したように思える。最大の収穫としては、訪問先の片田舎にも多く旅行者が集まり、活気に満ちていたことを思えば、わが国においても内外の旅人を呼び寄せる個性的な町並みの整備に時間をかけて取り組まなければならないという難題である。建築家の果たす役割は小さくない。

(しみずごろう・教授)



木造教会（教会と鐘楼）／オンフルーフ



木組みの家並／アルザス



木組みの家並／ディジョン

平成16年度 各賞受賞者一覧

優等賞

1231 西澤 直記 (安達研究室)	1047 内田 浩史 (小嶋研究室)	3014 石郷岡愛未 (短期大学部)
2603 西崎 絵理 (野村研究室)	1156 篠原 祥子 (横河研究室)	3106 調子 秀恭 (短期大学部)
1255 廣瀬 紀子 (斎藤研究室)	1074 笠原 祥平 (岡村研究室)	3037 岡部 友美 (短期大学部)
1273 古谷 聡子 (野村研究室)	1240 野田 恵 (関口研究室)	3147 山本康太郎 (短期大学部)
1171 鈴木 裕邦 (斎藤研究室)	1064 小川 清史 (三橋研究室)	

齋藤賞

M-3009 落合 正行 「仙台市卸町地区再生計画 ―既存倉庫群の配置及び空間特性を活かした集合住宅の提案―」	指導：高宮眞介教授
M-3054 山中 祐一 「弾塑性ダンパー付きトグル機構の性能に関する研究」	指導：石丸辰治教授

駿建賞

M-3052 山崎 大輔 「ノイズ音場における高齢者を対象とした明瞭度評価の予測法に関する研究」	指導：井上勝夫教授
M-3028 早田 倫人 「小豆沢体育館建替え計画 ―地域コミュニティの拠点となる健康スポーツセンターの設計―」	指導：若色峰郎教授
M-3015 木村 聡子 「高齢者の社会参加を促す都市型地域施設の設計 ―世田谷区池尻地区における地域コミュニティの再生―」	指導：今村雅樹助教授
M-3029 高野 洋一 「建物内における電波伝搬特性と予測計算法」	指導：井上勝夫教授

桜構賞

M-3006 岩佐 州紘 「実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊―脆性破壊遷移実験」	指導：半貫敏夫教授, 秋山 宏教授
M-3040 福島 孝志 「ストリング式二方向格子ドームの構造特性に関する基礎的研究」	指導：斎藤公男教授, 岡田 章助教授

桜建賞

〈卒業研究〉1007 新井佑一郎	1035 岩崎 豊 「試験温度をパラメータとした実大鋼構造柱梁接合部の破壊性状に関する実験的研究」	指導：半貫敏夫教授
1125 近藤 充弘	1056 大河原 諭 1247 原 健介 「締固め改良地盤の改良範囲に関する実験的研究 ―円形せん断土槽を用いた振動台実験―」	指導：安達俊夫教授, 山田雅一助手
1014 池田茉莉子	1279 堀江 夕香 1345 渡邊亜紀子 「非常時・非日常時における障害者等への環境整備に関する研究」	指導：野村 歡教授, 八藤後 猛助手
1143 櫻井 健太	1183 高山 裕子 「個別分散型空調機のハイブリッド運転方式の試行とその効果 ―日本大学理工学部駿河台校舎9号館地区の省エネルギーとCO ₂ 排出量低減の研究―」	指導：早川 眞教授, 蜂巢浩生専任講師
〈卒業制作〉1009 飯島真由美	「environmental art project」	指導：横河 健教授, 岡田 章助教授
1246 林 祐輔	「アクティブカンダガワ」	指導：若色峰郎教授, 根上彰生教授
〈短期大学部卒業制作〉3091 祖父江一宏	「NEAR FUTURE BLOCKS」	指導：小石川正男教授
3105 丹沢 祐太	「ビレッジ バンガード」	指導：田所辰之助専任講師

奨励賞

- 〈修士論文〉 M-3035 **西水流大典** 「森林で生じる残響の物理・心理面からの解明とその予測手法」 指導：関口克明教授
M-3042 **藤田 和典** 「制震装置の取り付け剛性がエネルギー吸収に及ぼす影響に関する研究」 指導：石丸辰治教授
〈卒業制作〉 3828 **藤平 真一** 「URBAN Style」 指導：今村雅樹助教授，大川三雄助教授

企画奨励賞

- 1109 **黒田 英生**（三橋研究室） 1157 **柴田 潤**（小嶋研究室） 1170 **鈴木 大介**（三橋研究室）
「京浜臨海地域 首都圏第3空港計画」 主指導：根上彰生教授

桜工賞

- M-3009 **落合 正行** 「『2003 リニューアル・リフォーム・コンバージョン設計アイデアコンテスト』入賞はじめ，数々のコンペに入選した」 高宮研究室
M-3032 **中田 幸宏** 「『第7回飛騨・高山学生家具デザイン大賞』入賞はじめ，数々のコンペに入選した」 高宮研究室
M-3057 **和田 篤** 「『第39回セントラル硝子国際建築設計競技』に入選した」 高宮研究室
1062 **岡永 蘭** 「全日大の硬式テニスサークルに参加し，日本大学内の数々の大会で優秀な成績をおさめた」 岡村研究室
1129 **齋藤 絵美** 「本学部のサークル『子どもと一緒に遊ぼう会』の副会長として，千代田区内の小学校や児童館地域のお祭りやアートイベント等においてサークルをまとめて参加し，区民の父母や子どもたちに感謝された」 野村研究室
3821 **谷畑佐和子** 「第17回国際学生照明デザインコンペにおいて佳作に選ばれた」 関口研究室
3016 **井上 慶** 「1，2年次クラス幹事としてクラスをまとめ，各学部行事に貢献」 短期大学部
3114 **長崎 円佳** 「オープンキャンパスなど学部行事において短期大学部PRに貢献」 短期大学部
3127 **細谷 直広** 「オープンキャンパスなど学部行事において短期大学部PRに貢献」 短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞^{*1}

- M-3007 **穴倉 正俊** 「代償ミチゲーション制度の適用方策に関する研究 ―ミチゲーションを導入した埼玉県志木市を対象として―」 指導：横内憲久教授，岡田智秀専任講師（兼担）

日本環境管理学会・木村賞^{*2}

- M-3008 **下平 智子** 「事務所建築物における清掃管理業務の評価に関する研究」 指導：三橋博巳教授

^{*1} 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に，平成8年度で定年（平成10年3月1日死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金，平成11年度で定年となった浅香勝輔非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え，不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。例年2点を推薦するが，本年は1点のみとした。

^{*2} 日本環境管理学会名誉会長 木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により，大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成7年度新設，旧・日本環境管理学会会長賞）

総長賞

〈学術・文化部門〉

- M-3003 **石崎 哲也** 「新建築住宅設計競技2003」1等受賞による。 所属：今村研究室

学部長賞

〈学術・文化部門〉

- M-3034 **永井 俊介** 「平成16年（第37回）照明学会全国大会優秀ポスター発表者賞」受賞による。 所属：関口研究室

齋藤賞 修士設計

仙台市卸町地区再生計画
—既存倉庫群の配置及び空間特性を
活かした集合住宅の提案—
／落合正行

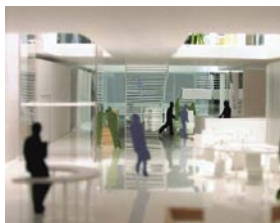


駿建賞 修士設計

小豆沢体育館建替え計画
—地域コミュニティの拠点となる健康スポーツセンターの設計—
／早田倫人



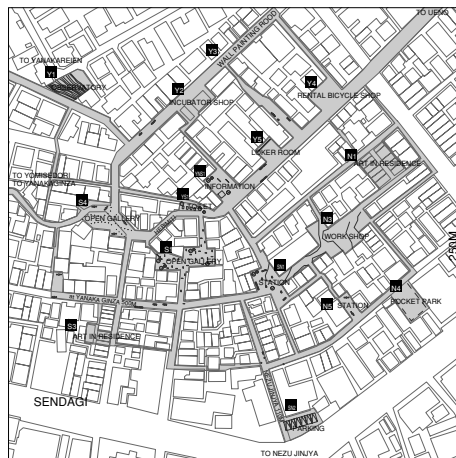
高齢者の社会参加を促す都市型地域施設の設計
—世田谷区池尻地区における地域コミュニティの再生—
／木村聡子



桜建賞 卒業制作



environmental art project / 飯島真由美



アクティブカンダガワ／林 祐輔

奨励賞 卒業制作

URBAN Style / 藤平真一



平成16年度 修了生・卒業生 就職先・研究課題一覧

大学院博士後期課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
安達俊夫教授				
D-2002	酒匂 教明		砂地盤の液状化に関する実験的研究 —地震動の二方向入力と振幅包絡形状の影響—	・ 建築学専攻 ・

大学院博士前期課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目		
安達俊夫教授					・ 建築学専攻 ・
M-3017	立岡 慎吾	㈱藤田建装	地震動を受ける多層地盤のエネルギー特性に関する実験的研究 —入力エネルギーと粘性減衰エネルギーの考察—		
M-3025	志村 晃一	朝霞市役所	建物と液状化地盤の動的相互作用に関する実験的研究 —単純化モデルによる仮想的実験—		
石丸辰治教授					・ 建築学専攻 ・
M-3042	藤田 和典	㈱竹中工務店	制震装置の取り付け剛性がエネルギー吸収に及ぼす影響に関する研究		
M-3045	三澤 綾子	THK ㈱	応答性能図表に関する研究 —非線形粘性ダンパーとバイリニア型弾塑性ダンパーの併合系を対象として—		
M-3054	山中 祐一		弾塑性ダンパー付きトグル機構の性能に関する研究		
井上勝夫教授・橋本 修助教授					・ 建築学専攻 ・
M-3010	笠井 雄	旭化成ホームズ㈱	可動壁設置によるオープンプラン型教室の遮音性能改善と空間印象評価に関する研究		
M-3029	高野 洋一	パナホーム㈱	建物内における電波伝搬特性と予測計算法		
M-3052	山崎 大輔	㈱奥村組	ノイズ音場における高齢者を対象とした明瞭度評価の予測法に関する研究		
片桐正夫教授					・ 建築学専攻 ・
M-3011	加藤明日香	㈱デザインショップ・アーキテツク	坂倉準三（1901～1969）の設計手法に関する史的 research —作品にみる都市的視座—		
M-3013	川崎宇希子		日本における建築写真の展開に関する史的 research		
M-3033	中山恵美子		カンボジア農村地帯の住居における土着的特性に関する研究 —北スラ・スラン集落の現状からの考察—		
M-3051	山形 徹	㈱ポリテック エーディーディー	近代の歴史的建造物における保存活用の評価手法に関する基礎的研究 丸の内界限における歴史的建造物の保存活用を中心として		
小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授					・ 建築学専攻 ・
M-3014	川本 秋作	㈱ゼファー	ワンルームマンション建設をめぐる市街地整備上の課題と対策に関する研究		
斎藤公男教授・岡田 章助教授					・ 建築学専攻 ・
M-3008	梅澤由香利	㈱オーク構造設計	集積型木質吊屋根構造における導入初期張力と形状に関する研究		
M-3021	佐藤 裕子	㈱中田捷夫研究室	レンズ型二重空気膜構造の構造特性に関する research		

M-3030	徳増 紘史	横河工事(株)	格子状板材で構成されたHPユニットの提案と基本特性に関する研究
M-3037	濱野 伸洋	鹿島建設(株)	ヴォールト型張弦シザース構造の構造計画に関する基礎的研究
M-3039	平野 貴紀	(株)類設計室	初期曲げを与えた薄板による半剛性吊屋根構造に関する基礎的研究
M-3040	福島 孝志	(株)日建設計	ストリング式二方向格子ドームの構造特性に関する基礎的研究
M-3044	堀井 智紀	神鋼鋼線工業(株)	Tensegric Trussの平板への適用性に関する基礎的研究
M-2014	呉 有紀		ホルン型張力膜構造の形状決定に関する基礎的研究

白井伸明教授・中山 優(短大)教授

・建築学専攻・

M-3002	石井 明男	東武谷内田建設(株)	軸筋の付着を除去したRC部材のせん断伝達機構に関する研究
--------	-------	------------	------------------------------

関口克明教授

・建築学専攻・

M-3034	永井 俊介	東京電力(株)	都市空間における視覚表示の情報取得に関する研究 視対象が浮かび上がる為の周辺環境と視線入射角に伴う情報伝達量の低下
M-3035	西水流大典	(株)若林音響	森林で生じる残響の物理・心理面からの解明とその予測手法
M-3041	藤井 康太	大栄不動産(株)	響きの評価における室内音響の専門家と一般聴衆の言語表現の違い
M-3048	本村 洋	(株)遠藤照明	街路景観の全体印象に部分的な情報が及ぼす影響

高宮眞介教授

・建築学専攻・

M-3005	伊藤香穂里		鶴見川下流域における都市型集合住宅の設計 —運河埋め立て地代替住宅を利用した密集住宅地の再構築—
M-3009	落合 正行		仙台市卸町地区再生計画 —既存倉庫群の配置及び空間特性を活かした集合住宅の提案—
M-3022	社領 充	(株)ミダス	女堀川再生計画 —本庄市土地区画整理事業見直しによる公園と地域交流施設の提案
M-3031	道津 空人	三井住友建設(株)	大森南エコタウン —個別建て替えによる工場まちの地区モデルの提案—
M-3032	中田 幸宏	戸田建設(株)	新橋アーバンコンプレックス —都心型集合住宅併設による既存街区の再生—
M-3057	和田 篤		府中市米軍基地跡地を利用した都市公園と図書館の設計

半貫敏夫教授

・建築学専攻・

M-3001	荒井 恵太	トヨタウッドユーホーム(株)	建物群周囲のスノウドリフトに関する実験的研究
M-3006	岩佐 州紘	(株)鴻池組 東京本店	実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験
M-3049	柳田 佳伸	日本大学大学院	露出型鉄骨柱脚の履歴特性に関する実験的研究 —アンカーボルト降伏先行型とベースプレート降伏先行型の性能比較—

本杉省三教授

・建築学専攻・

M-3012	川上 恭輔	(株)エス・ティ・ティ ファシリティーズ	下水処理場上部を利用した都市型農業公園の設計
M-3055	横田 裕史	(株)スペース	台東産業技術専門校の設計

若色峰郎教授

・建築学専攻・

M-3023	柴田 直周	(株)大建設計	高根台団地立替え計画 —高齢化に対応した住宅・高齢者施設の設計—
M-3024	清水 達矢	(株)日立建設設計	猿島フィールドミュージアム計画 —横須賀市猿島における環境学習施設としての提案—
M-3028	早田 倫人	清水建設(株)	小豆沢体育館建替え計画 —地域コミュニティの拠点となる健康スポーツセンターの計画—
M-3036	根本 直樹	(株)イクス・アーク都市設計	住工混在地区の立替え計画 —大田区東糀谷における地域産業支援サテライトをコアとしての提案—

M-3047	村瀬 聡		晴海三丁目再開発プロジェクト ―高密度集合住宅の設計―
M-3056	吉川 拓也	(株)池下設計	川崎市宮前区土橋小学校の設計 ―地域施設との複合化を目指した提案―

今村雅樹助教授 ――――――― ・建築学専攻・

M-3003	石崎 哲也		地区センターを内包した都市型集住体の設計 ―都心居住を核とした横浜市中区野毛町商業地区の地域再生計画―
M-3015	木村 聡子		高齢者の社会参加を促す都市型地域施設の設計 ―世田谷区池尻地区における地域コミュニティの再生―
M-3027	鈴木智香子	(株)日本設計	地域とともに学習する少人数学級のオープンスクール計画 ―杉並区松ノ木・大宮地区における環境学習型小学校の設計―
M-3038	半田 満		都営王子本町アパート建替えによる集住体の設計 ―北区公園都市構想と高齢化に対応した都営住宅の計画―

宇杉和夫助教授 ――――――― ・建築学専攻・

M-3016	金 永男		現在の中国集合住宅平面形式の類型化とその特徴に関する研究
M-3046	宮田 智大	大和ハウス工業(株)	成長期における子供室とコモンスペースの居住形式に関する研究 ―居住体験調査を基礎とした子供室の分析と検討―
M-3053	山田 真輝		多摩ニュータウンにおける神社の周辺環境形成に関する研究 ―従前の環境と現在の環境の比較検討と今後の再生指針―

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授 ――――――― ・不動産科学専攻・

M-3002	近江 大輔	(株)環境デザイン計画	東京の緑地計画に関する研究 ―練馬区の都市化からみた緑地の保全・創造に対する考察―
M-3005	小池 裕之		東京都心における回帰中高齢層の居住実態に関する研究
M-3006	小泉 佳典	ボラス(株)	総合設計制度による公開空地の連続性に関する研究 ―東京都千代田区、中央区、港区を対象として―

三橋博巳教授 ――――――― ・不動産科学専攻・

M-3004	北村 敏彦		環境共生住宅市街地モデル事業制度の促進に関する研究
M-3008	下平 智子	(社)全国ビルメンテナンス協会事業部	事務所建築物における清掃管理業務の評価に関する研究
M-3009	中島 広典	東海東京証券(株)	既存オフィスビルのコンバージョン適性評価方法に関する研究
M-3013	渡邊 健	日本土地建物(株)	小規模廃棄物処理施設における廃棄物発電導入促進に関する研究 ―環境負荷削減効果について―

横内憲久教授 ――――――― ・不動産科学専攻・

M-3003	梶原 健	(株)新日鉄都市開発	歴史的港湾施設の観光活用に関する研究
M-3007	穴倉 正俊	東急不動産(株)	代償ミチゲーション制度の適用方策に関する研究 ―ミチゲーションを導入した埼玉県志木市を対象として―
M-3012	細川 祐介	アパ(株)	ウォーターフロントにおける土地区画整理事業の整備要件に関する研究

横内憲久教授・櫻井慎一教授 ――――――― ・不動産科学専攻・

M-3010	長井 良平	(株)日本能率協会総合研究所	密集市街地整備を促進させるウォーターフロントの低・未利用地活用の可能性
--------	-------	----------------	-------------------------------------

学部

氏名の右肩 * 印は企画経営コース。

学生番号

氏名

進路・就職先

論文題目

安達俊夫教授・山田雅一助手

1056	大河原 論	ミサワホーム東関東(株)	}	締固め改良地盤の改良範囲に関する実験的研究 —円形せん断土槽を用いた振動台実験—
1125	近藤 充弘	康和地所(株)		
1247	原 健介			
1060	大沼 裕樹	丸五基礎工業(株)		セメント改良土の強度・変形特性に関する研究 —砂質改良土の変形特性と減衰特性—
1101	木原 朋広	日本大学大学院		山留め壁に作用する砂質土の平衡土圧に関する基礎的研究
1169	鈴木 拓郎	(株)創コーポレーション	}	液状化における間隙水圧比の評価指標に関する実験的研究
1322	山上 敏男	(株)ヤマウラ		
1177	平 真人	日本大学大学院		平成16年新潟県中越地震における地盤と擁壁の被害に関する研究
1196	田丸 裕一	鉄建建設(株)	}	リサイクル材を使用した振動低減材の実験的研究 —原地盤における低減効果の検証実験—
1300	水野 佑亮	西武建設(株)		
1231	西澤 直記	トステム(株)	}	建物と地盤の動的相互作用に関する基礎的研究 —単純化モデルの解析的検討—
1291	松原 宗佑	日本大学大学院		
0092	金井 安志	勝村建設(株)		広範囲なひずみ領域における非線形モデルに関する研究 —砂の非排水せん断挙動の解析—



石丸辰治教授・石垣秀典助手

1042	牛坂 伸也	日本大学大学院	}	SS400材を用いた弾塑性ダンパーの開発研究
1107	倉形 純一	日本大学大学院		
1122	小柳 純	富士ハウス(株)		
3834	森田 香織	東進住建(株)	}	シリコンゴム球を用いた戸建免震住宅の設計手法に関する研究
0103	北村 尚久	日本大学大学院		
0154	設楽 俊彦	大倉建設(株)		
0197	田口 淳也	大和ハウス工業(株)		



井上勝夫教授・橋本 修助教授・富田隆太助手

1005	阿部 雄一	三協アルミニウム工業(株)	}	乾式二重床における床衝撃音発生系の入力時の制御に関する検討
1165	杉浦 誠一	三井物産ハウステクノ(株)		
1220	中村 忠敬	旭化成ホームズ(株)		
1015	池松 充	ミサワホーム東関東(株)	}	住宅における成人と高齢者の歩行感覚に対する木質系フローリング床の評価法に関する研究
1139	阪西 秀和	三洋ホームズ(株)		
3817	島瀬沙弥香	旭化成ホームズ(株)		
1051	江原 克尚	ミサワホーム東関東(株)	}	建物内における規格別無線LAN通信性能と伝搬減衰の予測計算法に関する検討
1057	大久保寿子			
1249	半崎 亨	日本大学大学院		



1073	小幡 友子	三井不動産ビルマネジメント㈱	}	高齢者の明瞭度評価予測法の検討
1077	梶山 亮一	村本建設㈱		
1120	小林 秀彰	日本大学大学院		
1099	木下 雅之	トステム㈱	}	非ホール音場での演奏における音場評価要素の検討
1115	小酒 寿彦	㈱ビー・エム・シー		
1232	西田 拓	三井物産ハウステクノ㈱		
1145	笹川 直樹		}	都市部の住宅地における熱環境特性
1175	関 裕佑	ミサワホーム西関東㈱		
3812	剣持絵梨菜	アトリエ K&Y CAD DESIGN SCHOOL		
1242	延島 知之	大和ハウス工業㈱	}	建築音響特性と使用用途を考慮した電気音響調整法についての基礎的検討
1244	花島 一哲	ミサワホーム西関東㈱		
1269	藤田 晃弘	旭化成ホームズ㈱		
1293	松本 拓也	㈱モリモト	}	住宅性能表示制度と集合住宅の音環境における表現方法に関する研究
1305	皆川 健介	㈱日本建設クラフト		
1292	松本 久美	日本大学大学院		
1301	三谷 卓也	東日本ハウス㈱	}	可動壁設置によるオープンプラン型教室の遮音性能改善・空間印象評価・児童の授業時における発声音の評価に関する研究
1343	若林 哲広	㈱アデイスミューズ		
3827	藤澤 美華			

片桐正夫教授・大川三雄助教授・重枝 豊専任講師



1019	石田 純一		万国博覧会における建築物の造形表現 —「会場」「シンボル建築」「日本館」を中心とした考察—
1034	岩崎摩理江	茨城セキスイハイム㈱	ブレ・アンコール期からアンコール初期のレンガ造建築の編年指標に関する基礎的研究 内部空間の規模と壁厚および出入り口の左右の壁部の形状の関連性
1040	上田 浩子	日本大学大学院	アンコール遺跡の遺構内の中央祠堂を囲む回廊の変化に関する一考察
1055	大石 護		PREAH KOにおける伽藍構成の手法について 配置計画の分析を中心として
1058	大西 香織	㈱森戸アソシエイツ	シャルロット・ペリアンを再評価する 「協働」「日本」という視点からペリアンを捉え直す
1070	小田 高大	㈱オンテックス	アンコール地域における古代橋の設計手法について 橋脚・スパンの寸法計画と石材の積み方
1089	刈山 弘志		建築家『アドルフ・ロース (1870-1933)』の再評価 これまでの解釈との比較・分析を中心とする考察
1091	河野 孝典	トステム㈱	モダニズム建築における色彩の存在意義に関する考察 ル・コルビュジエ、ブルーノ・タウトの色彩観
1097	木津 智弘	㈱銭高組	クメール建築の開口部内側上部構造、開口枠の仕口について “Thommanon, Chau, Say, Tevoda, Banteay, Samreの分析より”
1121	小林 美琴		日本におけるアール・ヌーヴォーの導入とその時代背景 雑誌にみる評価の推移と建築作品を中心とする考察
1144	桜井 茶人		日本の伝統的床材としての畳に関する考察 畳の特徴と可能性について
1161	白鳥 結紀		昭和初期の建築雑誌に見るモダニズム建築の動向について 雑誌「国際建築」・「建築世界」を中心とする考察
1178	高崎 太郎		吉田五十八の作品に見られる特性と近代化の性格について 鉄筋コンクリート造による日本的表現を中心に
1199	月ヶ瀬雄介		アンコール王朝時代のアーチ型石橋について

1224	中森 聖	旭化成ホームズ(株)	タ・ケオ遺跡における祠堂の配置計画に関する一考察
1258	美藤 瑞穂		ブルネレスキ建築の特徴について
1267	藤嶋 充子*		城下町川越の都市形成に関する考察
1286	牧野 徹	日本大学大学院	大仏様建築の盛衰に関する一考察 再建・修復という見地から見た大仏様について
1287	松井 久恵*	京都工芸繊維大学	利休の茶室の草庵化に関する一考察
3808	草村 清香	東新住建(株)	中国庭園の空間構成の分類方法に関する研究 庭を構成する空間要素を軸線を中心として
3809	工藤沙由可	(株)タキズミ	民家保存の現状に関する考察 重要文化財民家の保存事例データを用いた分析
3816	椎名 智恵	Century21 (株)オープンハウス	擬洋風建築のデザインに関する再評価 デザイン成立までの過程を通じての分析
3825	中塩 絢	大和ハウス工業(株)	ハンリイ・ヴァンド・ヴェルド (1863-1957) の建築論 理論と作品変化の関係性の分析
0288	藤丸 崇徳	(株)アメリカンランゲージスクール	近代日本における椅子の発展とその背景 社会的背景と家具デザイナーの交流から見た考察
9075	川井田 直		クメール建築に設けられたソーマストラについて

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授



1027	井出 美純	野村リビングサポート(株)	総合設計制度の許可基準に関する研究 —政令指定都市, 中核市, 東京23区における比較分析を通して—
1095	菊池 通*	日本大学大学院	
3805	大熊 良輔	(株)新昭和	
1041	上田 洋平	旭化成ホームズ(株)	コミュニティ農園構想の実現に関する研究 —農地所有者に関する問題点の整理—
1281	本阿弥俊輔*	大和ハウス工業(株)	
1299	水谷 昌弘	(株)ファイブセンス	
1047	内田 浩史*	(株)サンケイビル	公共施設づくりにおける初動期の住民参加プログラムに関する研究 —川崎市麻生区の住民団体を取りあげて—
1133	齋藤 真理	日本大学大学院	
1205	徳江 明宏*	日本大学大学院	
1072	小野 道絵		東京都における大規模小売店舗の立地特性に関する基礎的研究
1202	常本 卓矢	(株)長谷工コーポレーション	
1302	三石 友紀	新日本建設(株)	
1088	柄澤 航太*	(株)ノエル	人口回復期における子育て世代の住環境に関する研究 —江東区豊洲地区をケーススタディとして—
1206	徳永 充英*	(株)長谷工コミュニティ	
1295	松本 全勝	(株)ユアーズ・コーポレーション	
1152	澤田 敏之		沿道の緑が「景観」価値に与える影響に関する研究
1237	蛭川 直明	(株)平成建設	
1277	星 拓人*	(株)ヒューザー	
1157	柴田 潤*	住友林業(株)	眺望景観阻害に対する評価に関する研究 —景観訴訟の事例を中心に—
1214	中島 祐介	日本大学大学院	

斎藤公男教授・岡田 章助教授



1026	市川 晃朗	東日本旅客鉄道(株)	ヒンジフレームで構成された多面体のパネルによる安定化についての研究
1065	沖 里美	(株)第一住創	大規模木質構造に関する調査・研究

1093	韓 永輝	日本大学大学院	建築事故に関する基礎的研究 ～朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故の分析～
1124	近藤 誠	スターツ(株)	アルミニウム膜の適応性の検討について ～金属膜の検討～
1130	斉藤 華織	新日本建設(株)	ストリング補剛されたアーチおよびドームの座屈性状に関する実験的研究
1154	篠崎 主弥	安藤建設(株)	HP曲面における部材構成が力学特性に及ぼす影響について (その3) 木格子HP曲面の形態抵抗把握実験
1171	鈴木 裕邦	前田建設工業(株)	張弦シザース構造の避難施設への適用に関する研究 ～ミニシザースからシザース村への新たな提案～
1173	諏訪部充史	大成建設(株)	ガラス支持システムに関する研究 ～レーンクリニックに着目して～
1184	瀧口真衣子	日本大学大学院	J. Schlaichの歩道橋に見る逆転の発想の研究 ～構造力学の基礎に基づく新しい形へのヒント～
1188	田島 清久	西松建設(株)	張弦シザース構造の避難施設への適用に関する研究 ～スパイダーケーブルによる変形抑制効果の把握～
1245	羽根 章祿	インターン留学	テクノデザイン (その1) ～テクノデザインの定義と同一要素で構成される建築の分類～
1254	廣石 秀造	日本大学大学院	集積型木質構造に関する基礎的研究 ～プレストレス導入によるアーチ形状への補剛効果の把握～
1255	廣瀬 紀子	三井ホーム(株)	HP曲面における部材構成が力学特性に及ぼす影響について (その1) HP曲面の幾何学的な位置付けと折紙HPの検討
1262	深堀良一郎	(株)丹青社	高ライズネット補強空気膜構造の実用化に向けての研究 ～内部環境の改善について～
1309	宮下 正人	日本大学大学院	テクノデザイン (その2) ～部材配置方法による力学的性状の変化～
1317	森永 信行	日本大学大学院	Tensegric Truss Type III 六角形unitの基礎的研究 ～3方向性を持った六角形unitの可能性～
1321	山内 麻莉	日本大学大学院	高ライズネット補強空気膜構造の実用化に向けての研究 ～内圧の維持管理・施工の改善について～
1330	山本 好恵	大東建託(株)	HP曲面における部材構成が力学特性に及ぼす影響について (その2) 実物件調査及び格子HPの提案
1338	吉野 誠一	日本大学大学院	Tensegrityの形状及び拡張性に関する研究
3810	久保田 武		Tensegric Furnitureにおける力学的挙動の基礎的研究
3820	高山 智以	(株)高田建築事務所	集積型吊り屋根構造に関するPS量と部材抵抗の研究

清水五郎教授

1011	五十嵐 健	(株)浅沼組	廃木材の再利用に関する研究
1079	勝俣 賢一	天草産業(株)	} 廃材煉瓦のリサイクルに関する研究 } ～セメント系多孔質材料の開発～
1323	山川 健次	富士ハウス(株)	
1092	川端三四郎	多摩美術大学	竹の集成材化方法と基本物性
1149	佐藤 博	日本大学大学院	} 木質系箱形集成部材の力学的性状に関する基礎的研究 } ～断面の開口率とプレストレス導入による梁部材の曲げ性状への影響～
1167	鈴木 宇憲	六国建設(株)	
1318	森本 一平	郡リース(株)	
1260	深田 健太	スターツ(株)	} コンクリート中の鉄の錆に関する研究 } ～促進試験による防錆剤の評価方法～
0135	酒井 大輔	(株)ニトリ	
1298	水上 隆太		アンコール遺跡の保存・修復に関する研究 ～画像・映像資料の整理と編集～





白井伸明教授・田嶋和樹助手

1063	岡安 一弘		外付け制震ブレースの取付部性能に関する研究 その1 耐震補強工法の種類と研究目的
1112	小泉 匡	㈱竹中工務店	ひび割れ幅の計測手法に関する研究 (その2) 解像度と2値化におけるしきい値の検討
1180	高野 賢司	大東建託㈱	鉄筋コンクリート造建物の耐震補強研究に関する今後の課題 —過去30年間における日本建築学会大会学術講演梗概集の調査を通じて—
1234	西村 豪	総合警備保障㈱	高強度材料を用いた鉄筋コンクリート造有孔梁の補強方法に関する研究 その1 既往の研究成果と各構造因子がせん断応力度に及ぼす影響
1261	深田 裕介	大和ハウス工業㈱	外付け制震ブレースの取付部性能に関する研究 その2 FEM解析による取付部性能の評価
1268	藤城 好将	日本大学大学院	コンクリート界面におけるせん断挙動の解析的研究
1270	藤ノ木淳史	㈱飯田産業	引張特性がRC平板の挙動に与える影響に関するFEM解析
1288	松井 宏剛		載荷履歴がRCボックス型耐震壁の全体挙動に及ぼす影響に関するFEM解析
1290	松永多加志	デザイナー	RC造有孔梁の破壊挙動と補強効果に関する解析的検討 (その2) 解析結果および考察
1310	宮本 卓	㈱間組	RC部材のひび割れ幅計測結果に基づく損傷評価 (その1) 主筋ひずみの推定方法と損傷度の判定
1320	矢野 慎一	㈱飯田産業	RC造有孔梁の破壊挙動と補強効果に関する解析的検討 (その1) 解析方法
0012	浅見 幸彦	サンユー建設㈱	鉄筋コンクリート造建物の耐震補強研究に関する今後の変遷 —過去30年間における日本建築学会大会学術講演梗概集の調査を通じて—
0190	高田 泰匡		ひび割れ幅の計測手法に関する研究 (その1) ハンディスキャナの有用性と個人差の検証
0281	藤岡和香子	熊沢構造設計事務所	高強度材料を用いた鉄筋コンクリート造有孔梁の補強方法に関する研究 その2 鉄筋コンクリート造有孔梁の補強方法に関する計画
9139	杉 太地	日本大学大学院	RC部材のひび割れ幅計測結果に基づく損傷評価 (その2) RC部材の変形とひび割れ幅に関する検討



関口克明教授・吉野泰子(短大)教授・羽入敏樹(短大)専任講師

1031	井上 謙太	三井ホーム㈱	輝度変化による面の進出後退現象に関する検討
1068	小椋真由子*	㈱遠藤照明	部分が全体の印象に及ぼす影響の基礎的検討
1081	金丸 良美	㈱ケンテック	光の性状としての柔らかさについて
1083	金子 幸代	日本大学大学院	住環境教育の実態に関する調査研究 小学生の住まいに対する意識調査
1084	加納 基喜	日本大学大学院	視線角度の変化による情報取得の低下 その2 縮尺音響模型実験による検討
1086	神長 葉子		平面室形状の定量把握 その2 既存コンサートホールの基本形状の分類
1100	木原 理志	三洋ホームズ㈱	室内音場の初期応答における音に包まれた感じの知覚 その2 直接音と後期反射音レベルを固定した音場条件における検討
1104	久我 綾香		幼児期の色彩環境の違いが成人にもたらす色彩感覚
1209	鳥居 真純	湘南ミサワホーム㈱	冬季における高齢者の住宅温熱環境の実態に関する研究 その1 居住スタイルを考慮したアンケート調査による心理量測定
1221	中村 直矢	積水ハウス㈱	森林で生ずる残響メカニズムに関する研究 その2 縮尺音響模型実験による検討
1238	根本 絵美	三井物産ハウステクノ㈱	冬季における高齢者の住宅温熱環境の実態に関する研究 その2 居住スタイルを考慮した実測調査による物理測定

1239	野沢潤一郎		経験による感覚尺度を用いた空間の明るさ感評価 その1 基準空間の共通化
1240	野田 恵*	(株)ゼニヤ	視対象が埋没しないための周辺環境
1296	丸田 尚弘	留学 (予定)	経験による感覚尺度を用いた空間の明るさ感評価 その2 絶対的イメージの中での明るさ感の有効性
1303	三森 貴嗣	(株)馬場設計	中国伝統民居における風環境の適応技術に対する検討について —客家土楼をシミュレーションモデルとして—
3815	小林 方美	日本大学大学院	室内音場の初期応答における音に包まれた感じの知覚 その1 受聴レベルを固定した音場条件における検討
3821	谷畑佐和子	東京ガスリモデリング(株)	化粧を行う空間における光環境の実態調査
3822	田村 紘子	三井物産ハウステクノ(株)	視線角度の変化による情報取得の低下 その1 文字指標を用いた視距離による差異
3824	寺門亜希奈		平面形状の定量把握 その1 楕円フーリエ記述子を用いた基礎平面形状の把握
3830	松崎 温子	日本大学大学院	冬季における高齢者の住宅温熱環境の実態に関する研究 その3 心理量と物理量の対応と今後の課題

高宮眞介教授・佐藤慎也助手

1020	石田 哲也	日本大学大学院	京都府中京区町屋街区の集合住宅についての研究 ～近代住宅を通してホールの意義を分析～
1053	遠藤 可恵		ルイス・バラガンの住宅建築における「庭」の空間構成についての研究
1117	小堤 公伯	日本大学大学院	都市型小住宅の開口部の採り方についての研究 ～敷地面積100㎡未満の独立専用住宅を通して～
1189	田中 優希		商業店舗の外部空間についての研究 ～STARBUCKS COFFEEのオープンテラスに見る～
1223	中村 優一	(株)紀建設	「米琉住宅」の間取りについての研究 ～沖縄県宜野湾市大謝名付近を通して～
1225	長倉 豊	椎名英三建築設計事務所	都市住宅地域におけるルーフスケープの形態に関する研究 ～柏市新市街地系地域ガイドラインの分析をとおして～
1236	西脇 梓	日本大学大学院	港区における公園から見た都市空間の研究
1276	穂刈 武	日本大学大学院	ル・コルビュジェの住宅作品におけるスロープの構成について ～創作思想と動線を取り巻く諸室の形態から～
1328	山田 英徳	(株)中央住宅	アルヴァ・アアルトの空間構成について ～作品プランの分析・比較を通して～
1347	渡邊 結衣	日本大学大学院	サテライトキャンパスの現況把握と諸室構成についての研究
2601	菊地真紀子		日本建築における素材としての土の史的変遷に関する研究
3804	牛澤 千佳	前田建設工業(株)	付帯機能から見る図書館建築の変遷
3826	春永有梨子	留学 (予定)	グンナール・アスプルンドの「森の火葬場」についての研究 ～ランドスケープデザインの視点から～

友澤史紀教授

1001	青木 拓哉	(株)中央住宅	} ブリーフ／ブリーフィングに対する地方公共団体の認識 および意識 ～東京都における公共発注団体の場合～
1003	安達佳津雄	富士ハウス(株)	
1025	伊丹 裕喜	スターツアメニティー(株)	} 高品質再生骨材によるコンクリートリサイクルにおける環境負荷低減 効果
1045	内川 陽平	日本大学大学院	

1087	亀沢 圭介*		}	子供の遊びの空間としての公園に関する研究 ～公園調査から見る公園と子どもの関わり～
0339	吉村 匡生	留学 (予定)		
1103	木村 孝嗣	西松建設(株)	}	遅延剤を用いたコンクリートの凝結特性及び強度発現
1119	小林 建則	新日本建設(株)		
1136	酒井 勲	戸田建設(株)	}	石炭灰を利用した各種骨材を用いたコンクリートの力学性状に関する研究
1193	谷山 和久	西武建設(株)		
1228	那須 義範	日本大学大学院	}	住宅の品質確保の促進等に関する法律（住宅性能表示制度）の現状・意識調査 ～日本木造住宅産業協会会員企業の場合～
1194	田上 佳祐	積水ハウス(株)		
1211	中嶋 克敬	高松建設(株)		

野村 勲教授・八藤後 猛助手

1014	池田茉莉子*	三井ホーム(株)	}	非常時・非日常時における障害者等への環境整備に関する研究
1279	堀江 夕香*	中野区役所		
1345	渡邊亜紀子*			
1016	石井 裕樹	東京コミュニケーションアート専門学校	}	障害者用駐車スペースおよび建築物までのアプローチに関する研究
1172	駿河 茂人	大和ハウス工業(株)		
1129	齋藤 絵美	(株)ジャクエツ		屋外遊具での予期せぬ子どもの遊び方に関する調査 —屋外遊具の安全に関する研究—
1135	齋藤 芽衣	(株)コムスン		聴覚障害者の建築物等における障壁に関する研究
1160	下村 潔*	自営	}	テーマパーク・遊園地に関する研究
1253	平山 清美	日本大学大学院		
1306	皆川洋一郎	スウェーデンハウス(株)		
2603	西崎 絵理	積水ハウス(株)		
1210	中澤 陽香	東京ナショナル建材(株)		保育所における色彩計画
1226	長島 梢	日本大学大学院		在宅医療を支える住環境整備のありかたについて —医療的立場からの調査—
1241	野中 瑞紀	住友林業(株)		幼保一元化に関する研究 幼保一元化の現状調査に基づく建築計画の提案
1273	古谷 聡子	日本大学大学院		慢性疾患児家族宿泊施設の建築計画に関する研究
1337	吉田 佳織	三井ホーム(株)		集合住宅における共用空間に関する研究 集合住宅における共用空間に関する今後のあり方
9216	飛田 真人*			社会福祉施設の屋上利用について 施設機能として屋上空間の有効性を探る

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師

1002	阿久津裕司			日本大学理工学部駿河台校舎7号館の蓄熱システムの改良
1004	阿部 充	富士ハウス(株)	}	頸髄損傷者の温熱環境に対する意識・実態に関するアンケート調査
1022	石山 貴之	東電不動産管理(株)		
1036	岩田 学	旭化成ホームズ(株)		
1090	川口 直人	トステム(株)		
1341	吉山 一成	多摩中央ミサワホーム(株)	}	日本大学船橋校舎14号館ソーラーチムニーの性能評価
1094	菅野 隆浩	(株)中央住宅		
1218	中村 一宇	(株)北洲		
1283	前坂 彰子	日本大学大学院		

1143	櫻井 健太	新菱冷熱工業(株)	} 個別分散型空調機のハイブリッド運転方式の試行とその効果 —日本大学 理工学部駿河台校舎 9 号館地区の省エネルギーとCO ₂ 排出量低減の研究—
1183	高山 裕子	橋本総業(株)	
1181	大家 玲奈	不二サッシ(株)	
1185	田口 将志	}	船橋14号館の簡易エアフローシステムの性能調査実験
0081	奥村 和世*		
1256	廣瀬 稔	新菱冷熱工業(株)	
			緩やかなダブルスキンにおける熱気流特性の調査研究 —日本大学駿河台校舎 1 号館の温熱環境と快適性の評価—

半貫敏夫教授

1007	新井佑一郎	日本大学大学院	} 試験温度をパラメータとした実大鋼構造柱梁接合部の 破壊性状に関する実験的研究
1035	岩崎 豊	スウェーデンハウス(株)	
1021	石原 寿彦	栃木県庁	
			引張試験による鋼材の延性破壊—脆性破壊遷移 —遷移温度による脆性破壊の回避—
1080	加藤 聡	YKK AP (株)	} 人工地吹雪中に斜め配置した建物模型周囲の吹き溜まり生成実験
2602	佐藤 寿樹	日本大学大学院	
1111	郡司 昌巳	(株)アコスト	
1176	芹澤浩次郎	日本大学大学院	} 初期非弾性域に着目したRC梁のエネルギー吸収特性に関する実験的研究 —アンカーボルト降伏先行型とベースプレート降伏先行型との比較—
1212	中島 敏	日本大学大学院	
0305	三浦 伸之		
9022	市丸 貴章		並列配置した建物模型周囲のスノウドリフト生成実験 —吹雪風洞実験と南極実測との比較—



三橋博巳教授

1006	天谷 直樹*	(株)プロバスト	} 江東区豊洲のマンション開発規制に関する調査研究 —東京都23区の大規模マンション建設に対する児童受け入れ状況—
1029	伊藤 博昭	(株)ダイヤ商会	
1064	小川 清史*	(株)アトリウム	
			建物の環境負荷削減効果と価格に関する研究 —CO ₂ 削減量からの価格の試算—
1076	加島 靖之	日本大学大学院	} 建物配置による雪の吹きだまり性状に関する研究 —模型雪を用いた風洞実験・気流の数値シミュレーション—
0243	中村 武寛	(株)ジョー・コーポレーション	
1109	黒田 英生*	(株)長谷工コミュニティ	
1346	渡辺 邦*	(株)朝日ビルマネジメントサービス	} 屋上菜園のあり方に関する研究 —一区民農園の利用状況の調査を通じて—
1158	柴山 博幸	(有)HYBRID	
1170	鈴木 大介*	(株)ゼファー	
1216	中野 瑞香*		長野県四賀村におけるグリーン・ツーリズムの取組みに関する研究
1190	田中 洋平*	日本大学大学院	} 中央区東日本橋のSOHO改装補助の利用に関する研究 横浜市におけるコンバージョンの可能性に関する研究 —関内山手地区のオフィスビルに着目して—
1314	村川 陽一*	(株)セボン	
0181	角田 麻衣	日本デコラックス(株)	
			地方におけるコンバージョン住宅 —地方都市再生とコンバージョン—





本杉省三教授・佐藤慎也助手

1039	植田 寛子*	スタジオオヴォクロード一級建築士事務所	非血縁者の住まいにおける共用スペースと居住者の意識に関する研究 共用（コモン）リビングを軸とした比較・考察
1327	山田 明里*	日本大学大学院	
1123	小山 拓也	北野建設㈱	ランドスケープ・アーキテクトにおけるモダニズムからアートへの変遷について ピーター・ウォーカーの著述・作品からみる
1150	佐藤 良	日本大学大学院	ミースとル・コルビュジエによる「原則」に関する研究 こえるべき「形式」とつなぐべき「形式」
1174	関 信博	㈱戸頃建築設計事務所	商店街の空き店舗利用と形状についての研究 東和銀座商店街の活性化
1192	谷口 円	日本大学大学院	情報化と建築 情報化社会における建築の在り方を探る研究
1197	田村 哲也		ルイス・I・カーン研究 住宅作品の変容過程に関する研究
1227	長富 大輔		都心部墓地空間の研究 墓地に対する意識調査
1259	深澤 一義	日本大学大学院	施設複合における目的外空間についての研究 図書館等公共複合施設を中心として
1297	丸山康太郎		集合住宅における中間領域の形成に関する研究と考察 現代日本の集合住宅を通して
1312	村上潤一郎	日本大学大学院	映画館パブリックエリアに関する研究 新しい客席空間の提案
1329	山村 一仁	日本大学大学院	大規模小売店舗のゾーニング実態に基づく大店立地法の課題 さいたま市の大規模小売店舗を対象として地域社会との調和方法の検討
3814	小林 寛幸	大和ハウス工業㈱	ランドスケープと水の係わりに関する研究
0079	荻野 耕太	デザイナー	「いい広告＝広告賞受賞」の研究 消費者とクリエイターの意識の違い

横河 健教授

1009	飯島真由美		まち並みの再構築についての研究 ～谷中・根津・千駄木の町をとおして～
1023	石山 真子	日本大学大学院	建築と家具の関係性について ～シュレーダー邸とジェームス・J・ギブソンの知覚心理学の定義よっての分析～
1030	犬塚 映司	日本大学大学院	有機的建築に向けて ～オートポリエシス・システムの建築への応用～
1108	栗本 謙一	日本大学大学院	ミースの意義と普遍性について
1127	後藤 崇夫	早稲田大学理工学部研究生	建築 ～社会～
1156	篠原 祥子	日本大学大学院	浅草橋地域活性化の展望 ～旧福井中学校跡地の有効利用について～
1229	奈良 文人	インフィールド	浅草の繁栄と衰退 ～ランドマーク的建築の変化について～
1307	蓑田 真哉		ルイス・カーンの研究 フィッシャー邸に関する考察
3801	安藤 誉	日本大学大学院	町工場の調査及び今後の展開 ～衰退した街並の復興～
3811	倉沢 健一	日本大学大学院	建築のハードとプログラム
3829	馬瀬 充朗	日本大学大学院	集住の崩壊と変革 ～集まり住むという行為の新たな可能性～



若色峰郎教授・渡辺富雄専任講師

1013	池田 修吾	㈱ヤスウラ設計	住空間における子供部屋の基本設計についての考察 —照明設計の視点から考えて—
1044	渦波 大佑	㈱小玉功都市建築設計室	臨海地域の移り変わりと親水空間の発展 —埋め立て地と都市の親水空間の関係—
1116	児玉 寛子		集合住宅における共有空間の評価に関する研究 —低層集合住宅の事例—
1131	齊藤 恒平	日本大学大学院(芸術学研究科)	現代のnLDKについて

1137	榊田 大輔	法政大学大学院	フィンランド建築に関する研究 —教会建築における光と空間の相互作用—
1147	篠邊 雅仁	日本大学大学院	ノーマン・フォスターの作品分析 —建築とテクノロジーの関係—
1151	佐野 誠	積水ハウス(株)	コレクティブハウジングについての研究 —3つのケーススタディに見る違いとは—
1164	菅谷 尚規	五藤久佳デザインオフィス	環境学習施設における学習プログラムの目標段階と学習空間の研究 —10の環境学習施設での調査を通して—
1179	鷹野 悦子	日本大学大学院	小学校に併設されたディサービス施設の使われ方に関する研究 —児童と高齢者の交流について—
1186	竹内那由他		空間要素としての階段について
1246	林 祐輔	東北大学大学院	コンバージョンの意義と問題点の研究 —東京都の事例による考察—
1252	平井 智子	ミサワホーム近畿(株)	高齢者住宅・グループホームに関する研究 —東京都足立区のグループホームをケーススタディとして—
1257	樋渡 敬之	日本大学大学院	住民参加型公共施設づくりに関する研究 —千葉市・四街道市における事例を通して—
1265	藤川 雄太		商業建築のファサードデザインのデータベース化と比較に関する研究 —表参道・銀座における商業建築ファサードの調査を通して—
1266	藤木 暁仁		建築計画におけるアフォーダンス理論の展開
1334	横田 恵	(株)井上デザイン企画	スポーツ振興を通じた地域活性化に関する研究 —茨城県の総合型地域スポーツクラブを例に考える—
1344	渡井 雅之	積水ハウス(株)	路地の空間構成と溢れ出しのもたらす魅力に関する研究 —東京都中央区佃島におけるケーススタディを通して—
3823	土屋 友香	武蔵野美術大学大学院	超高層マンションの住戸・住棟計画 —ウォーターフロントの事例による考察—
3831	松本 広一	(株)アディスマユーズ	子育て支援施設の役割に関する研究 —武蔵野市の子育て支援施設を通して—
3832	美寿見 一	(株)スペースス	ミュージアムの活動・展示評価における一考察 —アメリカの研究を通して—
3833	宮坂 友輔	りんかい日産建設(株)	画廊における展示空間の形状と空間利用に関する研究 —銀座画廊街の事例調査を通して—

今村雅樹助教授

1024	磯部 真	法政大学大学院	新しい美術館と美術空間のあり方について —横浜をケーススタディとして—
1052	江森千英子	(株)ハンセム	小学校における施設開放に関する研究 —アリーナの配置構成から考える—
1082	金山 圭子		都市における最小空間の獲得方法 —モノに基づく空間の認識について—
1102	金 源鎮	日本大学大学院	美術館における展示空間の形態変遷について —グッゲンハイム美術館を中心として考察した理想的な展示空間—
1148	佐藤沙也子		美術館と街の活性化 —変化する美術館のあり方—
1198	伊達真紀子	(株)ゼニヤ	都心部における百貨店の再生について
1208	飛田 久恵	日本大学大学院	地域を考えた駅の特徴 —日暮里をケーススタディとして—
1340	吉本 雅俊	日本大学大学院	都市における風景としてみた同潤会アパートの研究 —オープンスペース・ファサードからみる—
3802	石渡 寛	日本大学大学院	建築形態とその手法 —形態の力とその可能性—
3803	磯崎 洋才	日本大学大学院(芸術学研究科)	未来都市のあり方についての研究 —2XXX TOKYO—
3807	小川 雄	高松建設(株)	TOKYO NEW STYLE HOUSING —新しい都市居住のあり方—
3828	藤平 真一	日本大学大学院	地域複合施設の計画 —阿佐ヶ谷南商店街をケーススタディとした居住施設と商業施設との関係—





宇杉和夫助教授

1008	飯島 一貴	東新住建(株)	川崎区の京浜工業地帯における社会の居住空間の変化に関する研究
1028	伊藤 博昭	日本大学大学院	都市グリッド空間と道路からの山を中心とした周辺景観について
1032	猪俣 純	富士ハウス(株)	多摩ニュータウンにおける谷戸と神社の関係性の研究
1096	岸田 佳晃		脱単位空間論 ～100作品と6テーマで探る建築のかたち～
1128	蔡 東祥	日本大学大学院	東京都内10地区における地形を活かした江戸東京空間の景観再生に関する研究
1146	佐々木正和	積水ハウス(株)	家族形態とライフスタイル別に見る住宅プランの傾向に関する研究
1153	志澤 亮	稲垣商事(株)	団地の建て替えにおける住棟保存と活用の検討
1168	鈴木 崇也		城下町における水路の空間特性と都市再生に関する研究
1195	玉崎 勇介		草加松原団地原風景再生計画



岡村武士助教授

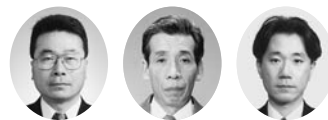
1062	岡永 蘭	キッツスポーツスクエア	アントニオ・ガウディのかたちと色彩
1163	神野 淳子	東京コミュニケーションアート	
1342	四ツ倉涼子*	東新工業(株)	
0275	兵藤ゆり子	(株)井上デザイン企画	
1074	笠原 祥平	大和ハウス工業(株)	自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート (NMC) の性状に関する研究—微視的観察
1335	横山 純一	戸田建設(株)	
1200	辻 威行	東京デザイナー学院	自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート (NMC) の性状に関する研究—力学特性
1201	辻村 剛至	積水ハウス(株)	
1251	東 圭一	清水建設(株)	
1325	山口 洋右	西松建設(株)	
1308	宮下 貴之	(株)平成建設	自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート (NMC) の性状に関する研究—化学
1336	吉澤 成久	鹿島建設(株)	



柳田 武専任講師

1069	小笹 祐輔	米国留学	地域振興のための大型スポーツ施設の活用法
1243	野本 悟	大和ハウス工業(株)	河川改修による新しい水辺のスタイルについて
1263	深見 大輔	セキスイハイム千葉(株)	小学校における定型教室(片廊下型)とオープンプランスクールに関する研究
1271	藤本 智寿	富士ハウス(株)	次世代の「駅づくり」に関する研究 —駅形態からみた潜在能力と今後の課題—
1285	牧島 佳祐	(株)井上デザイン企画	Urban D. N. A. 都市における「繋ぐ」建築とは —体験学習の場の提案—
1311	宮本 典昌	原工務店	住宅における「防犯」の実状と対策について
1313	村上 剛史	(株)アデイスミューズ	首都・東京の成立と首都機能移転に関する研究
1326	山口 義裕		上野公園の成立と変遷に関する研究
1331	鎌田 佳広	パンタンビジュアル研究所	建築設計におけるプレゼンテーション用3DCAD/CGの特徴と比較
1333	幸野 秀吾	パナホーム(株)	日本における建築再生のかたち —コンバージョンのパターンと産業遺産の活用—

小石川正男(短大)教授・森田吉晃(短大)助教授・田所辰之助(短大)専任講師 ―――



1204 遠山 俊輔

駅周辺の色彩景観における、
歩行空間道路仕上り面の特性 ―山手線各駅の実態調査の一考察

0239 中根 愛

雑誌『都市住宅』の〈セルフエイド〉特集にみる建築専門誌の編集のあり
方について

0301 松田 浩幸

不安定居住者居住地域における領域形成に関する研究
―横浜市寿地区での領域化欲求とその構造

下村幸男(短大)教授



1166 鈴木健太郎

福島県鹿島町役場
(4月より合併により
南相馬市に変更予定)

改良地盤上の2タイプの基礎ブロックの加振実験

中山 優(短大)教授・岡田 満(短大)助教授・内藤正昭(短大)専任講師 ―――



1142 佐川 憲司

野本建設㈱

9269 吉野 亮平

南極昭和基地産骨材を増量させた
アルミナセメントコンクリートの低温環境での強度発現について

3806 大園 拓央

日本建設㈱

3818 新藤 祐亮

㈱鈴木工務所

3836 山本 章

オリエンタル建設㈱

0175 鈴木 建一

藤和コミュニティ㈱

3835 山田 傑

積水ハウス㈱

0222 寺田 貴紀

りんかい日産建設㈱

RC部材の力学的挙動に関する実験的研究
H形鋼造架構の追跡法による弾塑性解析

短期大学部

学生番号	氏名	進路・就職先	所属ゼミ				
3001	青木 聡	理工・海建	中山	3053	古知 佑樹	生産工・建築工	黒木
3002	赤羽左智江	理工・海建	黒木	3054	小林有希子	理工・海建	羽入
3003	浅井 睦正	理工・土木	黒木	3055	小林 淳子	理工・海建	小石川
3004	浅川 敏瑞	新日本通産㈱	吉野	3056	小林 一浩	理工・海建	吉野
3005	浅野 純	理工・建築	中山	3057	小林 修一	理工・海建	田所
3006	浅野 紀章	理工・建築	羽入	3058	小林 修士	工・建築	黒木
3007	阿部真寿美	理工・建築	吉野	3059	小林 雅美	理工・社交	中山
3008	安澤 良人	コーワフューチャーズ	岡田	3060	小松 真一	サンユー建設㈱	内藤
3010	井口 友孝	理工・建築	黒木	3061	小森 一輝	理工・土木	森田
3011	石井 公博	理工・海建	下村	3062	齋藤 彩	理工・海建	羽入
3012	石川 亮	理工・土木	内藤	3063	齋藤 潤	理工・建築	下村
3013	石倉 綾乃	理工・海建	羽入	3064	齊藤 智成	理工・建築	下村
3014	石郷岡愛未	山本プランニング一級建築士事務所	内藤	3065	斉藤 愛美	理工・海建	羽入
3015	井手 健嗣	理工・海建	岡田	3066	斎藤 由佳	理工・土木	羽入
3016	井上 慶	理工・建築	田所	3067	堺野 幸奈	生産工・建築工	羽入
3017	今井 究	理工・建築	内藤	3068	坂元 千恵		羽入
3018	岩井 庸高	理工・海建	羽入	3069	坂本 真純	理工・建築	田所
3019	宇津木里沙	理工・社交	黒木	3070	櫻井 航	理工・海建	田所
3020	江面那津樹	東京電機大学	森田	3071	佐々木孝之	理工・海建	下村
3021	海老澤恵司		羽入	3072	佐々木達郎	理工・建築	下村
3022	江村 茉莉	㈲江村工務店	吉野	3073	笹沼 孝之	理工・海建	下村
3023	江本やよい	理工・建築	中山	3074	指田 茂巳	理工・土木	下村
3026	大澤 栄作		岡田	3075	佐竹 美加		羽入
3028	大関 博豊	工・建築	黒木	3076	佐藤 亮輔	理工・建築	羽入
3029	太田 泰徳	理工・海建	下村	3077	佐藤 瑠美	理工・建築	羽入
3030	大谷 祐子	石井企画㈱	吉野	3079	四十井晴美	理工・海建	田所
3032	大槻 直也		吉野	3080	下松 聖和	理工・建築	下村
3033	大原 和康	理工・海建	内藤	3081	島立 寛子	理工・海建	小石川
3034	大森 堯		中山	3082	清水 達也	理工・海建	田所
3036	岡部 邦行	理工・建築	田所	3083	志水裕希子	飯田市役所 建設部	内藤
3037	岡部 友美	千葉大学	田所	3084	珠玖 優	理工・建築	田所
3038	小笠原 良	理工・海建	羽入	3085	末田 優子	理工・海建	羽入
3039	奥村 和也		内藤	3087	須田 智幸	理工・海建	中山
3040	奥村 峰仁	理工・土木	岡田	3088	須田 裕美	理工・海建	中山
3041	小曾川陽子	理工・海建	羽入	3089	関野 恭輔	理工・海建	下村
3042	小野 志門	理工・建築	小石川	3090	早乙女有沙	理工・海建	小石川
3043	小野 晋	理工・建築	中山	3091	祖父江一宏	理工・建築	小石川
3045	金子 貢	中央工学校	岡田	3092	高野 智史	理工・海建	黒木
3046	川合 順子	理工・建築	羽入	3093	高野 裕介	理工・土木	森田
3047	川根 直	理工・海建	中山	3094	高橋 和裕	理工・海建	黒木
3048	北岡 信也	理工・海建	岡田	3095	高橋 建		内藤
3049	木村麻里子	理工・建築	黒木	3096	高橋 美帆		吉野
3050	黒崎 義基	理工・建築	中山	3097	高屋 絢子	理工・土木	森田
3051	河内 未来	河内塗装店	羽入	3098	財部 真美	㈱OMJ 松本店	吉野
				3099	田川 直輝		吉野

3100	滝瀬千紗子	理工・建築	田所	3131	増田 光司	理工・土木	岡田
3101	竹内理恵子	理工・土木	森田	3132	松崎由実子		吉野
3102	武田 萌	理工・建築	中山	3133	松田 謙太		岡田
3103	田房有利沙	田房建築設計事務所	中山	3134	松田 広行	理工・社交	内藤
3105	丹沢 祐太	理工・海建	田所	3135	松丸 佳代	ABGグループ	黒木
3106	調子 秀恭	理工・建築	中山	3136	松本 健司	理工・建築	吉野
3107	塚本佳世子	実践女子大学	小石川	3137	丸山 泰裕	理工・土木	森田
3108	富 匡史	理工・建築	内藤	3138	三宅 綾子	理工・建築	羽入
3109	富沢 祐也	理工・海建	内藤	3141	森田 裕介	(有)大進綾野	吉野
3111	土橋 俊太	理工・海建	黒木	3142	八木 隆行	日構シーエスエス	吉野
3112	中島 朋宏	(株)コスモ・アイ	岡田	3143	谷津 絢子		中山
3113	中村璃紗子	理工・土木	森田	3144	山口 恵美	財防衛施設周辺整備協会	中山
3114	長崎 円佳	文化女子大学	吉野	3146	山田 健介	理工・土木	森田
3115	長原 恵美	理工・建築	中山	3147	山本康太郎	理工・建築	黒木
3116	根本 和洋	理工・海建	中山	3148	横前 洋介	理工・建築	中山
3118	信戸 佑里	理工・海建	小石川	3149	吉橋 孝太	理工・海建	岡田
3119	萩薦 玲子	理工・建築	田所	3150	米山 涼子	理工・建築	田所
3120	長谷川雄一	(有)長谷川設備	岡田	3151	輪湖 大元	東洋大学	小石川
3121	早船 智紀	理工・建築	中山	3152	渡辺 弘之	生産工・建築工	小石川
3122	馬場 里奈	理工・建築	小石川	3153	渡邊 佳英	理工・建築	羽入
3124	福井 圭一		羽入	3154	綿貫 直子		吉野
3125	星 匠		中山	3155	和田 華子	理工・建築	中山
3126	細矢 尚希	アイダ設計	岡田	2023	梅澤 洋平	ものづくり大学	下村
3127	細谷 直広		吉野	2029	大崎 将達		吉野
3128	本領 千織	理工・建築	田所	2083	鈴木 康章		下村
3129	牧野 芳彦	東洋大学	黒木	2109	鳩宿 雅範		下村
3130	間篠 紀絵	工・建築	吉野	2122	細野 悠輔	東京電機大学	吉野

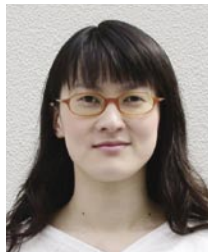
新任教員紹介

大西正紀 先生
(助手)



2年前に本大学大学院（高宮研究室）を卒業。その後、渡英し、Ushida Findlay Architects (UK) という建築設計事務所に勤務していました。東京に戻ってからは、パートナーと共に未熟ながらもデザイン活動を行っています。常勤、非常勤の先生方と学生とを結ぶトランスレーターとして、主に設計の授業に携わることになります。一度、住み慣れた大学を離れて、経験し感じてきたことを少しでも活かし、より良い環境作りができればと思っています。学生の皆さんには、具体的な知識はもとより、アイデアを伸ばす切っ掛けを与えながら、そして、共に建築を創ることを楽しんでいきましょう。設計準備室にいますので、気軽に遊びに来てください。これからが楽しみです。（おおにしまさき）

奥村和世 先生
(副手)



これから一年間、副手を務めさせていただきます奥村和世です。在学中は先生方や皆様大変お世話になりました。副手という役目を通して少しでもご恩返しができればと思います。また、皆様のお力を貸していただきながら、たくさんのことを吸収していきたいと思っています。微力ではありますが、一年間精一杯努めますので、どうぞよろしくお願い致します。

（おくむらかずよ）

酒匂教明 先生
(副手)



今年1年間副手を務めることになりました酒匂教明と申します。私は安達研究室出身ですので、専門は構造系となります。皆さんとは、特に構造系の実験でお会いすることになると思います。実験は理論を実証する手法として重要な役割を占めています。少しでも皆さんに、実験のねらいと楽しさを伝えることができればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

（さこうのりあき）

高田康史 先生
(短大副手)



この度、短期大学部建設学科の副手となりました高田康史です。私は本大学短期大学部を平成13年度に卒業し、他大学の編入を経て、大学卒業後は一年間設計事務所にて社会経験をしてまいりました。再び、学校に戻ってくる機会をいただき、学生のころとは違った形で、先生方や学生の皆さんに出会い接することで、経験・勉強し成長したいと思います。未熟ゆえ、多々ご迷惑をかけることもあると思いますが、精一杯がんばりますのでよろしくお願い致します。（たかたやすし）

■坪山北斗君（早川研M1）が、「平成16年度空気調和・衛生工学会大会」にて「優秀講演奨励賞」を受賞した。

■3月10日、「AD2005」が小泉雅生氏、佐藤光彦氏、杉千春氏、曾我部昌史氏の4名の建築家を審査員に行われた。「AD2005」は、卒業制作11作品の応募があったが、該当作品なしであった。「AD2005+」は、修士設計7作品の応募から、中田幸宏君（高宮研）の「新橋アーバンコンプレックス 都心型集合住宅併設による既存街区の再生」が受賞した。

■平成16年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修士生は、建築学科338名、大学院建築学専攻博士前期課程49名、同後期課程1名、同不動産科学専攻博士前期課程11名、短大建設学科139名であった。



AD賞 CSTギャラリーでの展示・1次審査



今村助教授、小泉、佐藤、杉、曾我部の各氏

教室ぶろむなード

■齊藤俊一助手、加藤未佳副手、長谷川育生副手、平田真貴副手、山口幸一郎短大副手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、今村雅樹助教授が教授に、重枝豊専任講師が助教授に、八藤後猛助手が専任講師に、岡田満短大助教授が短大教授に昇格された。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、大西正紀助手、奥村和世副手、酒匂教明副手の3名である。

■4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、高田康史短大副手である。



中田君のAD2005+ 受賞作品



AD賞 CSTホールでの発表・審査

■建築学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

伊藤 梅雄（(旧)設計演習Ⅱ）
国吉 直行（都市デザイン特論）
小平 恵一（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）
佐々木葉二（ランドスケープデザイン）
佐藤 正章（循環環境管理）
杉 千春（建築設計Ⅲ、建築設計Ⅳ、設計演習Ⅰ）
田井 勝馬（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）
茶谷 文雄（建築基礎構造特論Ⅱ）
野沢 正光（建築設計Ⅴ、サステイナブルデザイン特論）

〈退任〉

赤羽 輝臣（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ、(旧)建築設計Ⅲ）
河辺 哲雄（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ、(旧)建築設計Ⅲ）
川俣 慶司（都市計画特論Ⅲ）
齋藤 隆（建築学特別講義Ⅱ）
嶋田 幸男（(旧)設計演習Ⅱ）
田中 信義（建築学特別講義Ⅱ）
飛内 圭之（建築材料Ⅰ）
中川 龍吾（建築設計Ⅱ、Ⅲ、設計演習Ⅰ）
中村 弘道（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ、(旧)建築設計Ⅲ）

藤居 秀男（特別講義木造建築論）
本岡順二郎（鉄筋コンクリート工学特論Ⅱ）

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

内村 綾乃（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）
徳田 良英（福祉住環境概論）
中田 善久（建築施工法）

〈退任〉

染谷 正弘（建築設計Ⅱ、Ⅲ）
野村みどり（福祉住環境概論）
横山 清（建築材料Ⅰ、Ⅱ）

●駿建目次

（2005.4 Vol.33 No.1 通巻133号）

表紙「駒沢の家」
設計：横河 健
撮影：新建築社

『君は何のために大学に入学したのか』

建築学科履修要項

短期大学部建設学科履修要項

専門科目使用教科書並びに参考書

英、仏、伊にみられる

木組建築の町並み紀行

2

3

10

12

16

平成16年度 各賞受賞者一覧

平成16年度 各賞受賞作品

平成16年度

修了生・卒業生 就職先・研究課題一覧

新任教員紹介

教室ぶろむなード

18

20

22

39

40